明治三十四年十一月二十日發行（明治二十一年十一月本會創立）

第三種郵便物認可（明治廿六年四月四日） 毎月一回十五日發行
内務省許可（明治廿一年二月廿八日）

婦人衛生雜誌

第百四拾四號

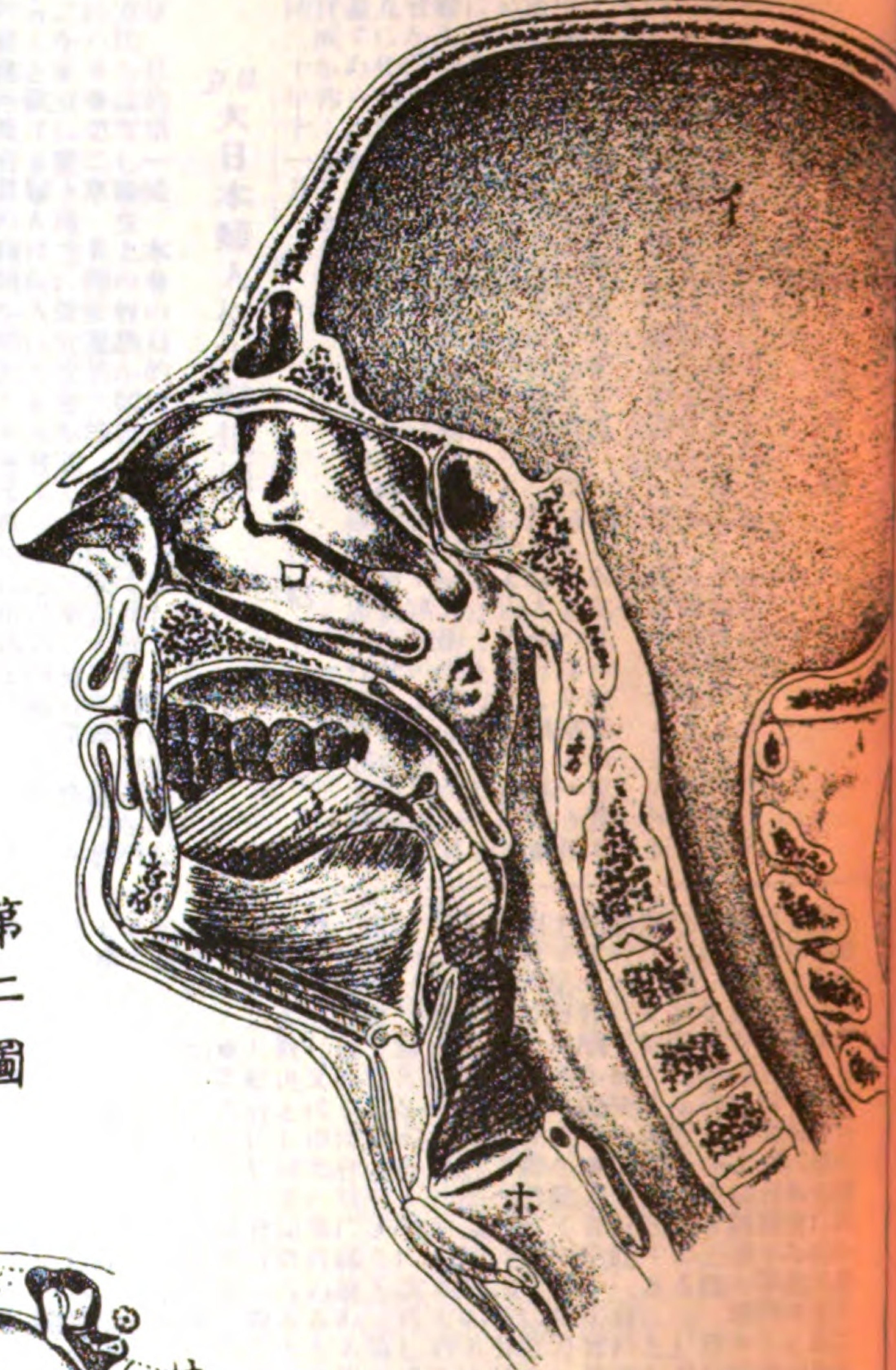
私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百四十四號 目次

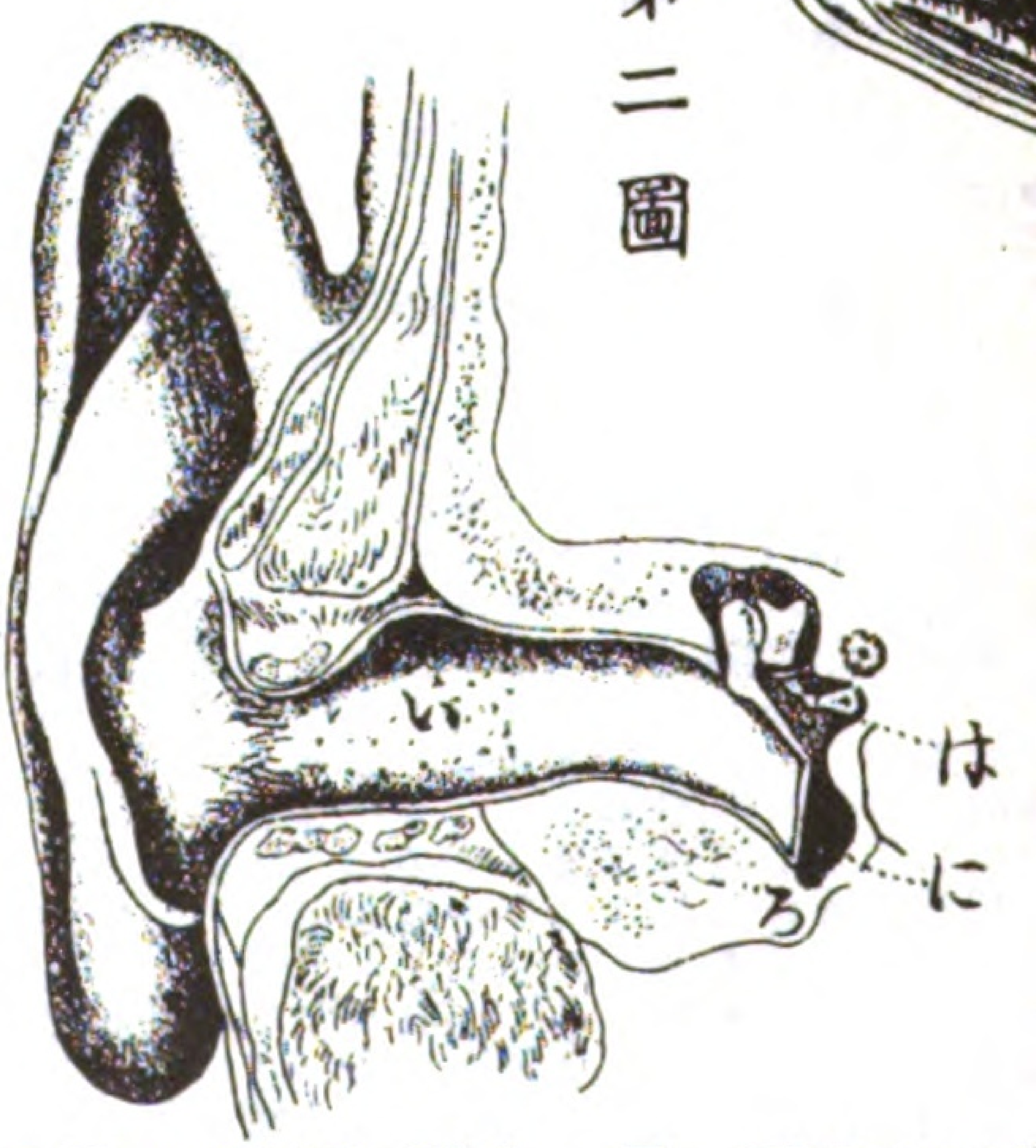
第一圖

鼻腔ト歐氏管トノ關係ヲ示ス



イ 頭蓋腔
ロ 鼻腔
ハ 歐氏管
ニ 咽頭
ホ 口頭
ヘ 脊推

第二圖



外聽道ヨリ中耳ニ至ル迄耳ノ縱斷ヲ示ス

い 外聽道
ろ 鼓膜
は 中耳腔
に 内耳
ほ 耳翼

第三圖



鼓膜ノ正面ヲ示ス

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみを[illegible]て足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を[illegible]ならんと[illegible]希はざるはあらざる[illegible]衛生の道の一日も忽に[illegible]べからざる所以[illegible]

[illegible]

[illegible]に[illegible]に[illegible]衛生の法は[illegible]婦人の[illegible]

[illegible]

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則

（明治廿二年十二月改正）

●第一章　目的　第一條　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會一般の幸福を増進するにあり●第二章　名稱位置　第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三章　會員　第三條　本會の會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會を望む者は姓名族籍住所及會員の種類を明記して本會事務所に申込まるべし入會の上は會員證を交付す（交付手續は本會[illegible]なり）[illegible]には事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金拾圓以上、特別會員は一ヶ月金[illegible]以上、通常會員は一ヶ月金拾錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を賛成する者は[illegible]●第七條　[illegible]●第八條　[illegible]

[illegible]

本會に左の役員を置く　會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月[illegible]

[illegible]

會設金は受領證を交付すべし　但し地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證を[illegible]に返信料を添へらるべし（郵券は一割増）

第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし　地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所に宛て送付あるべし（牛込郵便局振出）

第卅四條　會員中若し本會の體面を汚し[illegible]あるときは會長は評議會の決議を經て除名し會費を督促するも納付せざる者[illegible]

[illegible]若くは[illegible]十名以上の[illegible]得て[illegible]を[illegible]ふるべし

第卅五條　本規則は會長の意見又は會員二[illegible]依り總會の決議を經るに非ざれば之を更正することを得ず

東京市牛込區矢來町三番地

私立大日本婦人衛生會

● 役員姓名

總裁　小松若宮依仁親王妃　周子殿下

會長　侯爵夫人　鍋島榮子

副會長　瀬尾作子

幹事（いろは順）

仝　鳩山春子

仝　羽田三緒子

仝　穂積歌子

仝　岡田徳子

仝　高木かう子

仝　松平方子

仝　三浦教子

評議員

仝　石川さだ子

仝　瀬川捨子

仝　仁[illegible]子

仝　男爵夫人　西[illegible]子

仝　西[illegible]子

仝　徳[illegible]子

仝　男爵夫人　緒[illegible]子

仝　男爵夫人　川[illegible]子

仝　加[illegible]子

仝　子爵夫人　吉[illegible]子

仝　田中武[illegible]代子

仝　高[illegible]子

仝　男爵夫人　片[illegible]子

仝　南[illegible]子

仝　中[illegible]子

仝　關[illegible]子

仝　山本[illegible]子

仝　子爵夫人　松前[illegible]子

仝　子爵夫人　松井[illegible]子

仝　馬渡[illegible]子

仝　伯爵夫人　松平[illegible]子

仝　子爵夫人　秋元[illegible]子

仝　三宅[illegible]子

仝　宮木[illegible]子

仝　宮下[illegible]子

● 支會

山形、宇都宮、千葉、新潟、茨城

本會特別賛成員

（以上本會に於て[illegible]られし諸氏）

[illegible]

（未完）

十二月本會例會

來十二月七日（第一土曜日）午後正、一時ヨリ晴雨に拘はらず本會の例會を麹町區虎之門内東京女學館講堂に於て相開き候當日は精神病專門吳醫學博士及小兒科專門加藤ドクトル兩氏の講演有之候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會有之度候也

當日總裁宮殿下の御臨場を奉仰候

●開會時間は正一時勵行●衣服は可成御質素の事

演題未定　醫學博士　吳秀三君

仝　ドクトル　加藤照麿君

明治三十四年十一月

私立大日本婦人衞生會

婦人衛生雜誌第百四十四號（明治三十四年十一月十五日發行）

講演

耳の攝生（未定稿）

醫學博士　岡田和一郎君述

佃速記事務所員速記

總裁宮殿下及び諸貴婦人閣下、私は本日耳の攝生と申しまする題で御會に於て一場の演說をなすは私の大に光榮と致す所でございます、實は此前回に於て音の衛生と申す題で淸聽を汚しましたことでありましたが、今度は何か一つ私の專問の中でも違つた方面に於て淸聽を煩はしたいと云ふ考へで此題を擇んだ次第でございます、所で此の耳の攝生と云ふことは音の衛生に比ぶれば複雜であります、之を一場の演說の下に悉く說明し、皆さんの御了解を仰がうとしても所詮述べ盡すことは出來ない次第であります、そこで私は始終本會の末永く益々盛にならんことを希望する一人でございますから、是から後に回を逐ふて本問題を述べ數回の後に結了する積りでございます、ソレで先づ耳の攝生——耳の養生と云ふことに就て述ぶるに先だつて大體耳の解剖上の事即ち耳と云ふものは何う云ふものであるかと云ふことを申述べて、それから攝生のことに移るのが順序であらうと思ひますから、一二私の所有して居る圖を揭げましたが是で說明致します。（口繪參照）

扨て耳と云ふものはどう云ふものであるかと申しますると是は單に頭の兩側に附いて居る所の穴であるさうして其穴は音曲を聞き談話を聞き、外にも少々ばかり違つた感能があるけれども、主として音を聞くと云ふ感能のある部分である、さうして其穴が如何に造られて居るかと申しますと鼓膜と云ふもので

内外の界が出來て居る、其鼓膜はどう云ふものであるかと申しますと此處に書いてありまする通り耳を外から覗くと穴の突當りに薄い膜がある、吉野紙のやうなもので少々凹陷して居るけれ共大體は太鼓の皮のやうに張つたものがあつて外界と堺を立てゝ居る、ソレならば此鼓膜と界して居る所までを耳と云ふのかと申しまするとさうではないので吾々專門學者は此外部の所謂耳翼の所から鼓膜のある處までの間、ソレを外耳と申します、ソレから此鼓膜の内方を見ると極小なる空處があつて其中に小さな骨がある、此處を吾々が中耳と申します、ソレから此中耳の内壁の骨に二ツの小さな孔があります、此孔は通常薄き膜にて塞りて居りますがこれに由りて其内方に在る處の所謂内耳即ち聽神經――音響を聞く所の神經の分布して居る場所と相接して居ります、ソレで細かい所まで申上げては所詮煩雜に亘るのみでありますからこれは止めまして、外耳、中耳、内耳、此の三つの部分から成立つて居るもの、ソレを吾々が耳と申しまして、而外にある此のものばかり（耳翼を示して）を耳と云ふのではありませぬと云ふ事を申上置きます。

此の三部分から成立つて居る所の耳であるから此部分に起つて來る病氣と云ふものは實に非常な多數なものでありまして殆ど枚擧に遑ない位であります、さうして是等の部分に起つて來る病氣はどう云ふ者であるかと申しまするとソレは色々ありまするが、先づ耳の動きを惡くする、即ち音響を聞く力を減じ耳を遠くするのである、若しも以上申上げた三ヶ所中に、病氣が起つたならば多少耳を遠くすると云ふことは免かれないのであります、若し此症候が起つて來た時には――耳が遠くなつたと云ふことが起つた時には折角世の中に音樂と云ふ美術的の學問が發

達して精神を樂ましめるのであるが之を聞いて樂しむと云ふことが出來ない、ソレから又吾々が相互に言語と云ふものが天然自然にあつて是に依つて意思を交換して交際をする、併ながら此耳が只今申すやうに病氣に依つて働きを失つた時には交際界から遠ざかつて神樣が下すつた所の恩澤に浴することが出來ないのであります、デあるから病氣の種類は措いて何の病氣でも總ての部分に起る病氣は皆耳を遠くすると云ふことが伴つて來る以上はソレが爲に詰り天然の幸福を全ふすることが出來ないのであります、ソレから又モウ一つ耳を遠くすると云ふ外に非常に複雜な症候が澤山起つて來る、即ち俗に申しまする耳鳴、是は耳が絶えず鳴る、世の中は大變に平隱で靜かであつても己れ一人は常に暴風怒濤が起つて居るやうに耳が騷いで居る、或は世の中は極く靜かであるのに、己れの頭の中は鐘でも打つて火事でもあるやうに二六時中鳴つて居ると云ふやうなことがあるのは是は病氣が起つたのであります、ソレから又眩暈が起つたり或は嘔吐――胸が惡くなつて食物を吐いたりする症候も亦此耳の只今申した部分の病氣に來るものであります、若し斯の如き症候が起つたならば其耳を病む人の不幸と云ふものは甚しいものである、或人は「斯の如く耳鳴になつて苦しむ位ならば生きた甲斐がないから」と言つて自殺したと云ふ例もあります、若しも此樣な病を受けた人は實に不幸と言はなければならぬ、ソレからモウ一つ申して置きたいのは、耳の病氣は只今申した症候の起るばかりでなく、最も危險なものであります、耳といふものは皆さん御承知の通り頭蓋の下側で、腦髓に極く接近した所のものである、私が今申した如く頭蓋腔或は腦髓と云ふものと僅か障子一枚を界として居るものであるから鼓膜の内に膿が出て烈し

い病氣が起つたならば、其病氣は腦髓の中に這入つて行つて世にも恐るべき腦膜炎の如き病氣が起つて來て、救ふべからざる症候が起るのであるから、私の專門學であるからさう言ふのではありませぬが解學全體の上から見て人間の身體中にて頭の先きから足の裏まで種々の病氣のある中で一番耳の病氣は危險であります、ソレでありますから此恐るべき病氣に罹らぬやうにしなければならぬと云ふ必要が起るソレで私は今後以上の如き恐ろしい病氣を豫防する方法を企てたいと熱望する次第であります、私は勿論專門學者であるから、其病氣が起つたならばソレを癒すと云ふことも知つて居る、併し私は病氣を癒して人の悦ぶ顏を見るよりは、寧ろ世間の人が斯かる病氣に罹らぬで悦ぶのを見て喜ばんと欲するものであります、ソレであるから私が此衞生會に臨んで耳の攝生のことを申述べようと致したのである。

扨て耳の攝生法、以上の如き病氣に罹らぬやうにする方法、其方法は即ち耳の病を防ぐ策でございますが、此耳の病氣は如何に攝生法を良くした所が、此病氣を全く豫防すると云ふことは出來ない、攝生法で絕對的に總ての耳病を豫防し得るものではございませぬ、世の中の一般の衞生法が非常に進んで滿足なる域に達した曉にはイザ知らず、現今の所では此病を全く無くすると云ふことは出來ない、何故かと申しますれば世の中には傳染病と云ふものが澤山ある、如何に耳の攝生法が良くなつた所が、世の中に流行性感冒實扶的里の如き或は痲疹、猩紅熱等の如き傳染病が無くならぬ間は仕方がない、衞生學者は其豫防策を講じて傳染病を無くしたいと云ふことに盡力して居りますがまだ〳〵ソレは遠いことである、此傳染病が跋扈する間は耳の病を無くすることは出來ない、衞生法が愈々進んで一定の法則に

從つて是から先き最早望む所がないと云ふことになつたならばイザ知らず、現今の所では到底望むこととは出來ない、其間に生活して居る人間であるから私は如何に耳の攝生法を務めた所が決して悉く耳の病氣を豫防するとは言へませぬ、併ながら此攝生法をやつたならば病氣の幾分を防ぐことが出來る、今日よりも減ずることが出來ると云ふことは信じて疑はぬのであります。

ソコで私の申しまする攝生法はどう云ふことであるかと申しますれば、耳の病氣の原因を遠ざけると云ふことであります、人爲で遠ざけることの出來る原因を自分の身體から遠ざけると云ふことに過ぎないのであります、私は其方法に就て一ち／＼申述べやうと思ひます。

扨て其人爲——人の力に依つて防ぐことの出來る原因と云ふのはどう云ふのであるかと申しまするど、先づ七通りでございます

第一は　遺傳との關係
第二は　感冒との關係
第三は　外傷との關係
第四は　生活法との關係
第五は　傳染病との關係
第六は　中毒との關係
第七は　他部疾患との關係

此七つに於きまして時間を許す限り順を追ふて申上げます。

第一遺傳の關係です、是は最も注意して頂かなければならぬ、耳の病氣は遺傳に依つて起るのが非常に澤山ある、是は多くの學者の證明して居る所であります、一つの例を申上げて見ますと、トロルチユ氏と云ふ人は耳の病氣に罹つて罹つて居る四人の中の一人は遺傳であると云ふことを言つた、即ち四分の

一は遺傳に依つて起るのである、ソレからモースと云ふ人は中耳炎の病者を集めて百人の中三十七人、百分の三十七は遺傳であると云ふことを言つた、即ち三分の一强です、其外澤山の學者の實驗は皆三分の一位の平均でございます、であるからして耳の惡いお母さんなりお父さんなりがあるならば其人の子供は多少耳の病氣になると云ふことを考へなければならぬ、併し此遺傳があるから其子供は是非病に罹らなければならぬと云ふことはありませぬ、罹らぬ人も澤山ありますから其樣に恐るべきことはありませぬが、彼の聾唖や又た最も數ば聾と爲す中耳硬化症などゝ云ふさう云ふ風なものは最も遺傳しやすいものであるから是から先き良き母となり良き子供を拵へやうと云ふ希望の人は成るたけさう云ふやうな病氣を傳へぬやうにするのが必要だらうと思ひます併し是は既に遺傳病であると云ふことを承知されたならば將來人爲にてソレを避けることは容易に出來るだらうと思ひます。

次に感冒との關係です、此感冒と云ふことが耳の病氣に大關係を有つて居る、即ち耳の患者が私の極く表面的の觀察から見ても半分以上は感冒から起るのである、デあるから世間の人々が耳の病と感冒と關係があるのはどう云ふものであるかと云ふことを理解して、感冒から遠ざかることを人の力でやつて居つたならば耳の病氣に罹る人が大變に減ずることになるだらうと思ひます、扨て其感冒です、感冒が耳に及ぼす影響はどう云ふ風であるか、是には二通りあります、一つは直接的の即ち寒冒が直接に耳に及ぼすのと、モウ一つは間接的の影響であります、ソレで先づ直接的の方から申しますると、直接的の影響は色々ありまするが、先づ第一に非常に暖かい、此部屋のやうな所で汗をかいて仕事をして、さうし

て突然戸外の冷たい風の吹く中へ出て行く、さうすると耳が風を引く、急性の中耳加答兒などを引き起す、或は又非常に暖かい部屋の中で着者を澤山着て汗の出るやうな暖かいものを食つて、突然冷たい部屋の中或は氷室などに行くと他の部分にも風を引くが第一に耳が風を引く、さうして鼓膜炎中耳炎等の病氣を起す、或は郊外に散歩でもした時に非常な高い山に登る時に、登る中は非常に骨を折つて行くものですから汗をかく、息がきれると云ふやうなことをして絶頂へ行つて冷たい風に當る、其風に當つた時には直ぐに風を引く、耳には當らずとも全身ドッカに風が當るそれが爲め耳が風引きて病氣になる即ち暖かい所に馴れた人が急に空氣の激變に會つて突然身躰の一部分の急變のためにやつて來るのが直接的の影響でありまする、ソレからモウ一つは極く激しい直接の影響ですが、東京あたりでは御覧になることが少なうございますが、北海道越後信州あたりのやうな極く寒い所では耳が非常に冷たい風に當つて耳の外が腐れて死んで仕舞ふと云ふことがあります、以上申上げたのは皆直接の影響、身體の外の部分へ寒氣が當りて耳へは當らうが當るまいが構はぬ直接に身體の一部が風に當つて寒いと云ふことが直ちに耳の病氣を起すことを述べたのであります、ソレから又間接の影響、是は只今申した暖かい部屋から冷たい部屋に行つて急に冷たい風に當ると云ふことを致しますと、耳には幸に病氣を起さずとも所謂感冒と云ふ病氣のために鼻加答兒、氣管支加答兒と云ふやうな病氣が起る、さう致しますと耳の病氣は起さずとも咽喉加答兒、機關支加答兒と云ふやうな工合に種々の病氣を起す、其鼻加答兒などソレで濟んで舞仕へは宜しいが、瞬間にして耳に這入る、ソレを説明致しますと是は（第三圖イ）鼻であります

が(ロ繪參照)即ち鼻加答兒と云ふものは此邊の粘膜が腫れて鼻汁が出る、又茲に黒い穴(ロ)がある之を歐氏管と申しまして、此穴から耳の中へ續いて居る、鼻を咽喉の間から此歐氏管と云ふ管に依つて耳と交通して居る、即ち此黒い所(ロ)であります、ソレで人若し此鼻加答兒になれば是が變化して色々の耳の病氣が起る、又た氣管支加答兒、喉頭加答兒と云ふやうな病氣が成つて來ても其加答兒症が時として此歐氏管に這入つて來る、さうすると耳の病氣になる、是れ耳病が寒冒の爲めに間接に起るのであります、デ今日鼻や其他の部分に風を引くと云ふことがなくならぬ中は決して耳の病が全くなくならぬ者であるソレ故に此直接と間接と云ふ二つの影響のために耳の病氣を起すことが多いと云以上は、耳の病氣にかゝらぬやうに攝生をするには、風を引かぬやうにしなければならぬ、是は決して耳のためばかりではない人間の身體全體のためにも風を引かぬのが宜しいが、耳の攝生をすると云ふ上に付ては特に必要である、然らば風を引かぬ工風はどう云ふ風にやるかと云ふ問題が起つて來る、今此問題に向つて私が自分の考へだけを一つ二つ皆さんに御話を致します。

先づ第一に寒さに堪えるやうに身體を鍛へると云ふことが必要である、ソレで人間の身體と云ふものは多少「アンパッスング」臨機應變、場合々々に應じて行くと云ふ性質がある、人間の皮膚にも其性質がある、デあるから日本の兵隊が遼東半島へ行つてさうして、遼東の風と行つたら肌も裂くが如き寒さである、其中で雪の中に居つても風を引かぬ、凍へもせず、而かも戰と云ふ仕事をして病氣にも罹なかつたと云ふのはどう云ふ譯であるか、兵隊の身體が寒さに堪へるやうに鍛へてあるからであります、即ち日本の兵隊の皮膚の強いと云ふことを證據立てたの

である、又貴賤方の前で申すのは甚だ恐れ入りますが、世の中に乞食或はモット下等な人間が暮して居る有樣を見ると、別に着物も着ず外にばかり暮して居ると云ふ、斯う云ふ者は總て壯健です、病氣になつても醫者にかゝると云ふことは決してない、即ち斯の如き者の皮膚は外の荒い風に當つても差支ないやうに鍛へてある、デありますから風を引かぬやうにするのには皮膚を鍛へて強くするのが必要であります、此方法はナカ／＼貴婦人方には御望みすることの出來ないことでありますが、只今申したやうに病氣に罹れば恐ろしいと云ふことを考へたならば或は出來ないこともなからうと思ひます、ソレで第一其皮膚を強くするといふことを務めなければならぬが、是は前々から既に此會でも略ぼ申したと思ひますが、身體の冷水摩擦をする、冷い水に濕したる手拭で身體を摩擦するのです、湯ではいけない、夏でも冬でも始終朝起きて全身を如斯摩擦し、さうして皮膚を強める、ソレから成たけ薄着をする、是は宮本君も御同感でありませう、例へて申せば子供を育てるに風を引いてはいかぬとか何とか氣を注けて着物を澤山着せて育てられた小兒に限つて壯健な者はない、却て自由に戸外に出て着物や何かに構はず運動して居る子供程壯健である、ソレで平生薄着をして居る者は風を引かぬやうになる、是は荒い風に堪えると云ふ習慣を作るからであります、併し寒くて風を引く程に薄着をしろと云ふのではありませぬ、外の荒い風と云ふものは直ぐに身體に當るものではありませぬ、衣服から透通つて身體に當る風は極く暖かですから成たけ薄着をする、丁度日本の兵士が遼東に行つて凍へぬと云ふ位の耐寒の習慣を養ふ、大人でも小供でも是は同じことであります、ソレから第三には室を餘り暖くすべからず、冬は皆火を

焚ひて室を暖くすると云ふ習慣があるが是は餘り度が過ぎれば極く宜しくない、同じ温度の部屋にばかり生活して居るのならば宜しいが、戸外へ出なければならぬことが度々ある、デあるから常に暖かい室にばかり生活して居ると、若し外に出た時に風を引くと云ふことがあります、それで朝空氣を入れて其部屋を密閉して一度暖めさへすればソレ程寒いものではない、一度空氣を通して其部屋を閉めて置けば、其一日は暖くなつて居る、さうして御婦人方にはございますまいが男子は御酒を召上る、酒を飲んで汗が出たとか、或は御婦人方であれば舞踏會などへ入らしやつて舞踏をして、汗を流して運動を成された時とか直ぐ夜半後戸外へ出る、スルと身體の熱して居る所に以て來て外の寒い風に當るから平生は風を引かぬ人でも（皮膚の弱い人は勿論）感冒に罹るのであります、ソレでありますから酒を飲んだ人は酒の醒めるまで待つべし、舞踏でもして汗の出た人は汗の納まるまで先づ他の稍や冷へたる部屋で休まれて後ち熱がさめた時分に戸外へ出ると云ふやうにするが宜しい、ソレから其次には人間の身體の中で非常に冒感し易き局部、風を引き易い部分、頭から手の先き足の先き其部分を旨く包んで置くと云ふことが必要である、御婦人方は無論男子に比ぶれば寒氣に堪え難い、感じが強いと云ふことは生理上極つて居る、御婦人は寒い時分に外へ出る時は足袋を離してはならぬ、手袋も着けるが宜しい、又冷めたい時には耳を包むも宜しい、男子は帽子で頭を包んで居りますが、西洋人は途中どんなことがあつても帽子を長く取りて居ることがないが日本人は途中で學校の先生や何かに會ふと帽子を脱つて御禮をする、西洋人などに會つて御禮をすると「お前は帽子を取るに及ばぬ、構はず被つて居たが宜からう、風を引

くと宜くないから」と言つて心配して呉れる、却つて先きでは心配して居る、ですから西洋人は途中で人に會つても決して長く帽子を取つて居ると云ふことはございませぬ、是れは帽子を取れば風を引くからであります。御婦人は之に反して厚く紙を結つて皮膚を包んで居るから男子とは違ふと思ひますが、併し日本のお高祖頭巾は非常に宜いと思ひます、歐羅巴の婦人も日本の頭巾は寒氣の烈しい時分に煩或は耳などを包んで都合のよいものである、歐羅巴でも斯う云ふ品を流行させたいと云ふことを言つた人がありました、併ながら又一方から見ると丁度世を忍ぶ者でも顏を包んで歩くやうだと言つて笑ふ人もありますが、ソレは彼是れ云ふ限りでありませぬ、以上の方法に依つて注意して行けば無論風を引くことが減ずると同時に耳の病氣も自然減することだらうと思ひます。

兹に又序に感冒と關係を有つて居りますから、水浴と云ふことに付て一言申上げて置きます、近來色々の氣候療養が盛になつて參りまして、水浴、水に泳ぐと云ふことが流行になつて參りました所で私の述べまする所の耳の衞生に是れが宜いか惡いかと云ふことを考へなければなりませぬ、扨て此の普通の水河の冷い水、淡水浴は耳に向つて非常に有害であると云ふことは天下の輿論になつて居ります、冷たい水の中へ這入つて泳ぐと云ふことは耳を惡くする、是は先程から申した通り鼓膜は極く薄い膜であるから、水が鼓膜に當るとそれが爲め耳病になると云ふやうなことがある、最も恐るべき影響です、デ池の水や川の水の耳に這入るのは宜しくない、ソレから又海水浴は非常に害のあつたこともあり又益のありましたこともございまして、斷言して御答申すことは出來ませぬ、私共專門の耳科學會——萬國の耳

科學會總會で、此海水浴の利害と云ふことに就きまして色々議論がありまして、私も一回臨んだことがありましたが、甲の人が宜いと言つて例を擧げると乙の人が惡いと言つて例を擧げると云ふやうに、互に議論があるばかりでドッチとも極りませぬ、併しながら私が考へまするに多くの議論を總括して、ソレに私の實驗を加へて是だけのことは斷言することが出來ます、少くとも耳の病氣のある人、耳が遠いとか鳴るとか云ふ病氣のある人には海水浴も有害である、ソレから貧血性の人、御婦人の「ヒステリー」と云ふやうなものにも餘り宜しくないと云ふことが言はれます、併し是は私の專門に就てのみ言ふことでございまして、他の消化器病とか何とか色々各自專門の方から海水浴を御勸めなさる方がありませうが、今申しましたことは私の專門の例から申したのであります。

第三外傷、何か怪我をした爲に耳の病氣を惹起すことが澤山ある、御婦人方は此怪我と云ふことには天然に遠ざけられて居りますが、男子はさう云ふ危險に遭遇することが多い、例へば屋根の上で仕事をする者が高い屋根から落ちて頭を打撲する、さうすると聾になると云ふやうに外傷のために耳の病氣を起すことが多くあるが、幸にして御婦人方は此危險から遠ざかつて居りますから斯う云ふ大きな怪我のことは述べませぬが、小さな怪我のことに付いて申します、第一は色々な異物が耳の中へ這入りますこと、是は男子より御婦人の方が其機會が多い、何故かと云ふと御子供方の能く持つて御いでなさる南京玉と云ふやうな玉類や豆類や小石抔の過つて耳の中へ入れると云ふやうなことが非常に澤山ある、所が此耳の中へ玉が這入つたと云ふのは何でもないやうでありますが、是はナカ／＼危い話である、先づ

第一に此耳の中の鼓膜を破つて這入る、ソレであるから先程申した反射性の作用を起して眩暈、嘔吐、疼痛と云ふやうな色々な反射性の變化を起し、外聽道に長く異物が留まつて居ると所々に創がつき又た甚しい時は癲癇を起したり或は化膿性の中耳炎となることもあります、デあるから子供を御扱ひ遊ばす御婦人方は成たけ御注意なさることが肝要だらうと思ひます、耳の中へ這入つたものならドノ醫者でも良く之を引張り出し得るものではありません、外聽道の異物を無害に出すことは中々六ケ敷、時に出ると專門家でなければいけませぬ、専門家ならば引張り出しますけれども、時に依ると專門家でも出せないことがある、ですから通常人ではナカ〳〵出すことが六ケ敷い、鼓膜を破りて中へ這入つたものは尚は六ケ敷い、ソレから皆さんが耳が痒い時に御婦人方は釵の耳搔で耳を御かきになる、此耳搔で耳をかくと云ふことが時に依ると非常に害をなすことがあります、第一に餘り奥の方をかいて鼓膜を破つて仕舞ふことがある、ソレから又外聽道に創を付け色々の出來物を起すことがある、それから又耳搔と云ふものは取れ易いもので、搔いて居る間に途中て折れて耳の中に留まつて仕舞ふ、私の病院に或婦人が「ガラス」の釵の耳搔で耳を搔きて其耳搔が耳の中へ折れ込むだと云ふのがありました「ガラス」で出來て居る釵がありますが其耳搔が耳の中で折れて仕舞つた、ソレから私の病院に來るまで五人か六人の醫者にかゝつて、私の所に參りました時分にはモウ熱が出て腦膜炎の症狀が起つたものですから仕方がない見殺しにして仕舞つた、此やうに「ガラス」の耳搔で耳を搔いた爲に病氣になつたと云ふやうなこともあります、デありますから先づ搔くには折れない釵、決して折れないと云ふことを見てソ

レから御掻きになるのは無論宜しいが鼓膜まで行つてはなりませぬ、又餘り强く搔てはなりません、そふして耳の中に垢が溜つたならば適當の方法を以て醫者の言ふ所に從つて洗ふのが宜しいのでございます。

ソレから今度は第四生活法との關係、是は矢張り御婦人方には少ないが、例へば鐵道の運轉手のやうな音響の烈しいガタ／＼ガタ／＼鐵道の搖きやら絶えず汽笛を鳴らして居ると云ふやうな職業は最も惡い、鐵道の運轉子の耳は往々其職業の爲めに聾となる、耳が聞えなくなるのです、職業の中で鑄掛屋或は石屋、研屋など云ふやうなものや、軍隊に於ても砲兵のやうな大砲の音を始終聞いて居る人は多く重聽になり易い、デございますからして斯う云ふ風な職業に從事して居る人は耳の病氣を惹起し易いのです、そこで强い音響のために聽神經が麻痺して耳の病氣になるのであると云ふ理屈を御了解下すつて、若し烈しい音を聞かなければならぬと云ふ塲合には烈しい音の感ぜぬやうにしなければならぬ、即ち耳の中へ綿花でも詰めて置くが宜しい、烈しい大砲の音や烈しい汽笛の音でも聞かなければならぬと云ふ時には綿花を耳に入れる、雷鳴の烈しい時にも耳に綿花を詰めると云ふ工合に、豫め耳に綿花を入れて其音を直接に導かぬやうなことにしなければなりませぬ、無論職業に依つて之を避けることの出來ないものがある、石屋、研屋、鑄掛屋などに向つて職業をよせと言つた所がよす譯にいかぬから、是非今申したやうな攝生法を能く注意して、耳を大切にして職業に從事しないと只今申したやうな不幸に陷ることがありますから、成べく此原因に遠ざかることを呉れ／＼も注意して置きます。

ソレから今度は傳染病との關係、是は隨分澤山ござ

いまして一々申述べるとナカ／＼六ヶ敷くなります から極く簡單に短かく述べます、此傳染病、殊に日本に多くあるのは流行性感冒、麻疹、窒扶斯、實扶的里、ソレから此頃になつてポツ／＼出たのは猩紅熱、昔はないと云ふて居りましたが隨分近來は出て參りました、其外近頃横濱あたりにあります流行性の腦脊髓膜炎、さう云ふ風な急性の傳染病及び慢性の肺結核など丶云ふ傳染病が非常に澤山耳の病氣を起す、ソレで傳染病が耳の病氣を起すには即ち感冒の時のやうに直接間接の區別がある、直接と云ふのは人間が窒扶斯なら窒扶斯にかゝると其黴菌が血液の中を通つて耳の中に這入つて行く、即ち耳が窒扶斯に罹ると云ふやうなものであります、此場合には病毒が人躰の血液の中を通るのであるから致方がない又た流行性感冒麻疹等の病毒も亦同じく耳に這入つて此やうな病氣を起すのでありますからして、是は世に傳染病が無くならない間に先づ人爲を以て防ぐことの出來ないものである、前に申しました通り世の中に傳染病がなくならぬ中は耳病を絶對的に悉く防ぐことが出來ぬとは即ち此事でございます、併し又間接にやつて來るのも澤山ございます、即ち流行性感冒でございますれば先づ鼻加答兒或は咽喉加答兒、氣管支加答兒或は窒扶斯でも麻疹猩紅熱でも麻疹でもソレに罹つた人々を見ると何れも多少咽喉鼻腔等の病氣を起して居ないものは殆んどありませぬ、そこで此圖(第三圖)にある如く耳と鼻咽喉とを連續さする歐氏管が呼吸に連れ嚥下に伴ふて開いたり閉がつたりして居るものですから鼻や咽頭あたりに在る病毒が其處から耳の中へ這入つて參ります、さうして化膿性の中耳炎を起します、扨て此中耳炎と云ふやつは先程申しましたやうに往々頭蓋内に這入つて行く、さうして腦膜炎と云ふやうな危險な病

氣を惹起すものです、此中耳炎の療法は近來非常に進歩して早く治療を加へればよく癒ります、慢性になつたのでも宜く癒ります、併ながら場合に依つてはどんなに手術を加へても極く瞬間に頭蓋の中へ這入つて腦膜炎を作ると云ふやうなこともある、斯う云ふやうなのは治療を施す道もありませぬで醫者も時としては救ふことが出來ないと云ふやうに甚だ面倒でありますから成たけ斯かるイヤな病氣を起さぬやうにするより外はない、ソレで先づ一半は先刻申したやうに血液を通つて行くから是は防ぐことが出來ない、併ながら他の一半は歐氏管から這入つて行くものとすれば、成たけ流行性感冒や、痲疹や、猩紅熱等に罹つた時は鼻加答兒と云ふやうな病氣が、歐氏管から耳の中へ這入つて行かぬやうにしなければなりませぬソレで其這入つて行くのを防ぐには普通鼻をかむ方法に注意して行けば幾らか人爲に依つて之を防ぐことが出來ると信じます、私の知つて居る人で曾て中耳炎に罹つて危險に瀕したことがあるが、其人が流行性感冒の經過して居る間に此鼻の拭ひ方の惡かつたために惡くなつたと云ふことを明かに自分でも知つて居りました、此頃では洋行でもして歸つた人は多くは鼻を拭くのに西洋風に大概はハンケチを片手に持つて兩方の鼻を壓へて強く拭く、さうすると耳の中へ空氣が這入つて耳へ抜ける、若し其時流行性感冒の經過中或は痲疹の經過中などなれば其黴菌が空氣と共に耳の中に這入つて行つて其中に宿つて仕舞ふ樣になります即ち終には彼の恐ろしい病氣を惹起すのでありますから、斯の如き病氣に罹つて居る間には成たけ鼻のつまらぬやうにするが宜しい、若し詰つたならば醫者に診て貰つて開けて貰ふが必要です、鼻汁の溜つて來た時分には今申した樣に「ハンケチ」を片手に持ちて強く拭くのは

甚だ宜しくない、止むを得ずんば兩手にて一ハンケチ」を持ち鼻の片方を壓へて置いて餘り力を入れぬやうに鼻をかむのが宜しい、又大變に粘液が流れて來てそふして兩鼻腔が塞がつて居るときは汚ないやうではあるが鼻汁を後ろの方へすゝりて口の中へ出すのが宜しひ、さうすれば耳の中へ這入つて行かずに安全に鼻の中の物を出すことが出來る、ソレから又只今申したやうな傳染病に罹つた時には咳嗽をする、咳が出る其嗽と共に一寸した機會で黴菌が耳の中に這入ることがある、さうしてソレから病氣が起つて來ると云ふこともある、殊に結核殊に肺結核などに罹つた人は始終痰を咽喉から出して居るが、其痰が咳嗽に連れて歐氏管から這入つて結核性の中耳炎になることがあります、無論痰を出すには勢ひ強く出しますとソレから耳の方へ這入つて行くやうになりますから、成べく耳に這入らないやうな工合にしなければならぬ事が起る

第六には中毒の關係です、先づ一番耳を害しまする毒物と云ふのは鉛、砒石、水銀、硝酸銀、煙草、酒、沃度加里「モルヒ子」「コロ、ホルム」「キニイ子」、「ザルチンサン」のやうなもので、まだ澤山ありますが私の考へに及ぶだけを擧げたのです、其中で醫者の用ゐる藥が最も多い、沃度加里「モルヒ子」「キニイ子」「ザルチンサン」「コロ、ホルム」と云ふやうなものは極く危險です、さう云ふ藥を醫者が知らずに餘り多く病人に用ゐて病を起した時にはソレは醫者の罪である、併し是れは素人の用ゐる者でないから敢て恐るゝに足らない、惟だ此中毒の中で御注意を仰ぎたいのは鉛です、本邦などでは古來白粉を用ゐる習慣がありますが、白粉には往々鉛を含んで居る、近來白粉の害と云ふことを唱道して追々鉛のないのが廣まつて參りましたから今日に於て述べる必

要はないかも知れませぬが、鉛の這入つて居る品物を皮膚にすり込むと慢性の鉛の中毒に陥る、鉛中毒に罹れば麻痺を來したり其他複雑な症狀を起して耳の方にも一種の耳鳴がしてそして重聽になりましてソレが段々進行して終には聾になると云ふやうに極く性質の悪い耳病を起します、ソレで婦人衛生會の御方は鉛の這入つてる白粉などは御使ひになりますまいが、どうぞ御心配下されて世間で之を用ない様に御注意下さらなければなりませぬ、次は硝酸銀是は日本ではどうか知らぬが羅欧巴では能く使つて居る、婦人の白髪染、少しく白髪の混つて居る人は之を染めるに硝酸銀を用ゐると云ふ例が澤山ある、日本でもポツ〳〵するやうに見受けますが、若し此硝酸銀で始終髪を染めたり何かする爲に中毒に陥つた時には、一種の有痛音響症即ち音を聞くと耳が痛くなり響きを聞くと耳が痛く感じて始終眩暈耳鳴がして中々難症でございます、是も硝酸銀の這入つた白髪染だけは御注意を望みます、ソレから次きは砒石です、日本では餘り用ゐる人が少ないやうでありますが、一種の毒物ではあるが西洋では皮膚を奇麗にし、柔かくして光澤を好くすると云ふ効があると迷信して美貌策を講ずるために此の砒石を飲む人が澤山ある、日本ではどうか知らぬが西洋人は使つて居る、砒石の中毒に當つた時には矢張り外に色々の症狀を起すと同時に耳に潰瘍即ち出來物が出來る、是も餘り皆さんが御用ゐにならぬ藥であるけれども若しさう云ふことがあつてはならぬから申述べて置きます、ソレから烟草と酒です、是は御婦人方には少なうございますが、天下萬民の——人としての嗜好品で、食物と同じやうなものであるから幾ら之に重税を課しても酒と烟草はなくならぬ、所謂米や肉類と同じことでありますソコて煙草は直接と

間接との關係を以て耳を惡くする、煙草の中にある「ニコチン」の中毒のために重聽がやつてきて耳が惡くなる、是れは直接の害です又烟草を喫するために咽頭炎や咽喉炎などを起して咽喉が眞赤になつてさうして其粘液が澤山出て來る、ソレが此歐氏管の經路を經て中耳の加答兒症を起すと云ふやうなことになる、是れ自然に間的接にやつて來る場合でござります、故に烟草を酷く喫する事、殊に「ニコチン」の澤山あるものを喫ふことは耳の衞生に甚だ惡い、ソレから又酒、是も非常に惡い、若し此酒精の毒に中つた時には頭に充血をして耳がガン／＼鳴出す、併し是は酒の醉が醒めると癒つて仕舞ふが、慢性の酒精中毒になるとナカ／＼癒らない所の耳の病氣になつて來る、ソレばかりではない氣が狂ふこともあるナカ／＼油斷の出來ないやつである、故に酒も過度に飲るのは宜しくない、中毒と云ふことに就きましては其位に止めて置きませう。

ソレから第七、最後の他部疾患との關係のことを申上げます、是は甚だ澤山ございまして、頭の上から足の先きまで一々申上げると時間ばかり要しますから皆さん方に直接の關係を有つて居る所のことだけを申上げて是れで局を結ばうと思ひます、消化系即ち消化器の病氣の中に第一關係しますのは齲齒です齲齒のある時には極く烈しい耳の神經痛、耳に痛みを覺える、ソレであるからして耳に痛みのあつた時に齲齒のある人は齲齒のために耳に痛みが來たと云ふことが分る、ソコで早く齲齒を癒さなければならぬと云ふことを考へねばならぬ、又慢性の胃病にかゝつて居る人は烈しい所の耳鳴が始まつて、是れもうるさい症狀に陷る、さう云ふ時には醫者に何遍見せても癒らない、耳を癒さうとしても癒るものではない、直ぐに胃の方の專門家に廻して胃から先き

に直して貰ふと云ふことにしなければならぬ、ソレから呼吸器病とか其他色々の病氣が幾らもありますが、略しまして御婦人方の方のことを申しますが、月經に異狀がある時には時に依ると耳の方に烈しい耳鳴が來る、其際に其耳鳴を癒すには先づ其子宮の方から癒さなければならぬ、即ち斯う云ふ時の耳鳴を癒すのは婦人科の醫者であると云ふことを知らねばならぬ、又妊娠中にも耳に異狀が出來て來ることがあるがソレは妊娠が終れば癒りますので、迚も人爲を以て左右することの出來ないのであります。

扨て以上の七つの種類を舉げて申しましたが、是で耳の病氣は何に依つて起りどう云ふ風にしたならば人爲を以て此病を減らすことが出來るかと云ふことも述べ盡したと思ひます、皆さんが此方法に依つて之を攝生して此恐るべき病氣から遠ざかるやう氣を注けられるが宜しい、總て日本の人々が此病に遠かり私の所へ來る病人が一人でも減ると云ふことが出來ましたならば私は大いに滿足に存する次第であります。

（完）



清韓漫遊所感（前號の續）

（本會講演）　愛國婦人會　奥村五百子述

佃速記所員速記

今度は潤江の御話を申上げなければならん、此潤江の地形から申せば、此處は揚子江の沿岸にあります河口です、此の河口には大凡四萬艘の小舟がございまして、此船は荷物を運送し、又は人を乘せて渡世を致して居るのでございます、それで上には荷物なり客を乘せまして、其下には親子諸共に幾人となく

其船底で一生暮して居るのであります、ドンな暴風雨、ドンな大洪水の時でも決して陸に上ることは出來ませんので、常に此船に住まつて居るのでございます、私は餘りと思ひましたから聞いて見ました所が、アノ船の人間はドンな風雨の時も上陸することの出來ないのは、今の清朝が滿州から起つて明朝を亡ぼした時に、今の清朝に叛いたから其懲罰として、一時たりとも陸にあがる事は許さないと云ふ法律を拵へたのであります、併しながら買物には町に往かれるが、其他は一寸も陸にあがることは許されないのでございます、それですから何百年となしにアノ船で暮して居ると云ふことでございます、實に難儀なものでせう、貴孃方はコンな國に生れなかつたのが一の幸福であらうと思ふ、我國にも船頭とか海人とか云ふ者もございまする、併し決して上陸を許さない、風雨の時でも上ることは出來ないなどと云ふことはないから、風雨の時分には皆家に歸つて安樂に暮して行けるのでございます、實に日本は有難い國でありまする、之を申上げるのは外ではないが、彼の船乘は清朝より繼子扱ひにされながらも、何百年となしにアノ苦界に沈んで居る人間とは正反對に、皆さんは此のやうな立派なる國に生れ、此樣な好い學校にて安心に勉强が出來るのは皆お上の御陰でございますぞ、私は最早六十を越して居りますが、ドンな席に參りましても此御話は重ね〲致すです、貴孃方は是から學校を御卒業になつたならば、必ずお嫁に行くのでございませうが、ドウか御子さん方に桃太郎や爺さん婆さんのお話は全廢されんことは呉々も望みます、それと云ふのは學校では一日に僅か五時間とか三時間とか教員の傍に居るばかり、其他の時間は皆母親の傍に居るのでございますから、母親が一番近い教員であります、それのみならず母

親たる者は子供の爲には盡さなければならん所の義務がある、就ては他のお話よりは日本には君あり國ありと云ふ事を能く御聞かせ下さるやうに願ひます、貴孃方は支那朝鮮の婦人とは大いに異つた考をお持ちになつて、御子さん方を御教育下さるやうに私から切望致します、私は幼少の時分――母親の膝元に居りました頃に、餘暇さへあれば常に楠公の話をして貰ひ、且實錄楠公三代記の講釋を聽きました、其時分の事は今以て忘れは致しません、其の爲に人よりも早く君あり國ありと云ふことは幼少の時分から能く記憶して居りました、

それで支那のお話は此位にして、是から朝鮮のお話を致します、私は二十七八年の後より朝鮮へは幾度となしに往來して居りました、それで二十九年の八月全羅道の光州と云ふ處に參り、其近邊を視察致しまして、それから三十年三月三日の日に門司に着きました、朝鮮を視察致しましたのは、光州邊に京都本願寺實業學校の分校を建てまして、どうか韓人と日本人と仲が好くなるやうに其方が往つて心配しろと云ふ本願寺よりの命令でございましたし、私も少々考へもありました所から、其土地の人民より生徒を募集することを初めましたが、困つたのは朝鮮の愚昧ゆゑでありました、皆さんも全羅道の事を御知りになつた人に聞けば能く分りますが、それは〳〵日本で生徒を募集するとか學校を建てるより面倒であります、それは如何なる理由かと云ふと、彼の國では財産を拵へれば酷い目に逢ふ、それでございますから自然業務に熱心なる者がなくなる、それと同時に教育も其の惡習に伴ふのであります、さう云ふやうですから財産家とか金滿家とか云ふ者は殆ど無いやうです、それは金を儲けたり蓄へたりすると酷い目に逢ふから、それよりは金を貯へずにある丈は

皆な使つて仕舞ひ、なくなるとソロ／＼働くと云ふやうな有樣でございます、それで朝鮮の監獄の規則と云ふものは、餘程變つて居るのです、其主なるのは金を貯へまするると臀を打たれて牢屋の中に繋がれます、さう云ふ事がありますから、朝九時から學校へ來いと仰しやいましても唯ではいやですなぜと云ひまするると、牢屋にでも入れられて酷い目に逢ひますから、錢を二十文か三十文出さなければ行くことは出來ないと云ふのです、私の方では日本から教員を連れて行つて、其上御飯を出して其外に錢を二十文なり三十文なりは出せないが、併し教師まで連れて來てムザ／＼歸るのも殘念に思ひ、此に於て吾々は大いに失望致しどうしたら好からう、どう云ふやうにしたら生徒が來るだらうと考へましたが良い考へも附きませぬ、據ろなく其時京城に居りました、加藤公使の處に相談に行きまして、私は更に全羅道の光州と云ふ處に學校を建てやうと思ひまして、教師まで連れて來てそれ／＼奔走しましたが、前申すやうな事を言ひまして參りません、手の附け所がなく大に困却致して居りますが、何か良い考へはございませんかと相談しましたら、加藤さんが申しますには、先年日曜學校と云ふものを京城に……君が開かれた時も、餘程心配し奔走して生徒を募集しましたが、サッパリ入校者がなくて私の處に參りまして、どうか良い方法はないかと申しました、暫らく經つて段々生徒も殖えて、參りまして三年目とか三年半目とかになつて、最早日本人と交つて商賣とか通辯が出來るやうになつて、金が取れるやうになつて、始めて向て――餘程何にかゝ出來るやうになつて、ふて御飯を喰べて月謝を持つて來るやうになつたと云つて悅んで來て話したことがある位であります、ましてて全羅道の光州邊では御飯を食べて金を與れと

云ふのは當然の話した、と斯樣に親切に談じて呉れましたから私は歸りまして、早速教員を連れ草鞋穿きで毎日巡廻講話見たやうな事をして生徒を募集しました、其募集しますに三四年かゝりました、其間には謂ふに言はれない困勞を致しました、初めには子供に内地から以て行きました菓子を與へたりなどして、やうやうの事で四年目には僅かの生徒が參りましたやうな次第でございます、日本で申せば肥後の五箇山見たいな處でございます、私は決して嘘は申しません、此處に居られます日本銀行の總裁山本さんの奥さんに伺ひますれば、私が云ふことが嘘かなんだか分ります、

話の序でに申上げますが、朝鮮の官吏、朝鮮の官吏となつて出來まするとはキイサン、日本で申す藝者、之を七八人位抱えることが出來ます、それを抱えることが出來ますのは、道長とか、郡長とか警察長とか云ふやうな官吏だけです、それで交代するとか云ふやうな場合には、ゾロ〳〵連れて行くのでございます、朝鮮では牢屋金、即ち我邦の監獄費とか云ふやうなものを財産家から取立てるのでございます、千圓取れば八百圓と云ふものは其長が取つて仕舞ふ、それで向ふには牢屋金、即ち監獄費と云ふものは僅かしか要らない、其譯は罪人には辨當と云ふものを遣らない、遣らないから親戚とか知人とか云ふ人が、一々御飯を買つて來て入れてやるのであります、入れて遣りませんと餓死するのであります、さう云ふ規則でありますから、年に幾人となしに餓死するのであります、或時私は警察署へ訊問を見に行きました、其時署長と云ふ人が藝者の肩に寄懸つて、吸附煙草を喫して居りました、其前に罪人が荒筵の上に座はらせまして、傍に居る藝者が一間餘もある棒を以て罪人を叩くのであります、罪人は毆か

れて痛いからヒイ〳〵と叫びます、其痛むのにも頓着せず代り代りに叩くのでございます、罪人は叩かれながら幾ら出しますから御勘辨を願ひますと言ひますと、叩き方が少なくなる、詰り金を澤山出せば少し叩くと云ふやうな風です、罪人は臀をまくられて叩かれますから眞赤になつて仕舞ふ、それですから臀から血が流がれます、實にそれは〳〵見られたものではございません、罪人は實に憫れです、尻を叩かれて痛しさの餘りに金を是だけ上げますとか、どれだけ上げますとか云ふので、皆な金を取られて仕舞ふのです、臀からダラ〳〵血が出まして、見て居ると情けないものであります、貴孃方はソンな國に生れずに僥倖でありますぞ、ソンな國に生れたならばそれは〳〵大變だ、だから私の申上げる事を好く御聽きなさい、お子さん方や皆さん方は、此國が衰微して仕舞つたことは御存知ないか知りませんが、段々衰微して仕舞ふのであります、其の生徒が貴所の方で御飯を食べさせて給料を下さいましたら學校へ行つて上げませうと云ふやうなことで、それは〳〵實に貧乏が酷い有樣で、家があるかないか知れんやうな、實にその家と云ふものは家の形をして居りませぬ、それは〳〵情けない蒲團も被る物もなんにもない、鏡臺一ツない、それで國人が木を伐つて跡に植へると云ふことを知らないから、盥も何にもない、着物と云ふ物はタッタ一枚で、それを洗ふにはどうして洗ふかと申しますと、天氣の好い日に石の上に持つて行つてバタ〳〵と叩ひて、御飯を炊ぐ釜の内に入れてグツ〳〵煮てさうして干すのであります、雨が降りましても傘もない、それは〳〵酷い有樣で、貴孃方は雨天の時には車にお乘りになつてお歩きになるから噓を云ふと思召しがございますか知れませんが、朝鮮人は雨の降る時には外へ出る

ことが出來ませぬ、着物は着た儘でございますから虱が澤山居りまして、ポリ〳〵と掻いて居る、大變な虱でございます、私は朝鮮に居ります内は虱に食はれるのは業をすると云ふ考へでございました、家の構へは石を置きまして、其上に蓆を敷いて居る、家の内はさして廣くありません、餘り大きい家はない、誠に小さい半間ばかりの出入り口があつて外は皆壁で、其口から家の内へ這入るので、高さは自分の頭が閊へる位るで恰も日本の小屋のやうなものでございます、それて爐て火を焚きますと横穴から出るやうになつて居る、それを蒲團の代りにするのであります、其上にゴロリと寢るのです、官吏とか財産のある者の家には紙が張つてあるが、貧乏の家には寢卷もお蒲團もないので、お湯に這入つたことなどはございません、婦人は夏になりますると、夜る河に參りまして河の中で水を遣つて居る、男は晝間洗つて參りますが、婦人方は晝はかゝることが出來ませぬから夜るになると河の中で泳いでは河の水をあびて居るのであります、それでございますから道中致しましても盥が一ツない、足を洗ふ事が出來ません、私は古い手拭を一ツ持つて居りまして、泥まぶれになつても洗ふことは出來ませんから、それで拭いて置きました、それで九月から十二月一杯は一枚の着物を着て居るのです、それから舊のお正月の元日に洗濯を致しまして、三月頃まで夜晝着て居るのでございます、其不潔は實に言はん方なし、それで虱はポリ〳〵居りますから、女の十人も這入つて呉ると到底虱の苦患を免れることは出來ません、ソンな國の者を少しは考へてごらうじろ、皆さんは亞米利加とか英吉利とか獨乙とか、善い所の御話ばかり聞いて惡い國のお話を聞いたことがございませんから何とも思召しますまいが、なか〳〵ソンなこと

てはない、朝鮮人の有樣を見ると自分の國の貴いことが大層分ります、私のお話をお可笑いなどゝ思ふと違ひますぞ、私は誠心を以てお話をするのです、人情は日を逐ふて浮薄になつて國恩を何んとも思つて居ない、それであるから私は精神を振つて日本婦人を養成しなければならんと思ふて居るのでありま す、それをソウお思ひにならんでは違ひませう、どうぞ今日申上げることを御記憶になつて居りませんと、他日お子さんをお育てになるのに今までのやうな事をやつて居つては段々國が弱くなつて、お前さん方ばかり日本婦人として威張つて居らうと思つてもそれは出來ませぬ、私は支那の慘狀を見て我國の子供の育て方が惡くなつて、支那のやうに利慾一點になつては困ると思ふから此事をお話せねばならんと思つて今日申上げるのである、實に我軍隊の忠勇の人がなかつたら、迚も我國は此の儘やつて行くことは出來ないと云ふことを存じて居りますから、アナタ方に此お話をする、なぜと申せば縱令狂人と言はれても構はない、一人たりとも私の申すことをお耳に留まつて下されば私は結構である、此處に殿下がならせられて居りますから支那の慘狀を委しく申上げまする譯に參りませぬが、婦人として實に死するまでの汚辱を受けたと云ふことは、夫は〱一通りの事で命が捨てられるものではございますまい、捨てられますか、死ぬまでの辱しめを受けると云ふことはよく〱の酷いことでなくてはならん、モット御話を申し上げたいが、君樣がならせられて居りますから控えて居ります、新聞などで段々御覽になつて能く御存知でもありませう、私は此間偕行社に於て發會式を致しましたが、共會に出て此のお話を致しましたが、どうか我軍人の戰死を致された後が、五人も八人もの暮しを三十圓位の恩金では迚

も生活をすることが出來ないと云ふことを認めて居ります、それで戰死者の奥さんだちは子供を敎育することも出來ませぬ、生活も出來ない位ゐです、其の子供を何とかして救つてやりたい、私は貧乏人でありますから皆さんに訴へて發起人となつて貰ひ、此處に居られまする君樣に御願ひ申上げました所が、どうかしてやりたいと云ふ御精神でお話なされて下されました、發起人を拵へろと云ふのでございますから、それで此發起人になられた方々がお出になつて居ります、其お話は外ではない、國の爲め君の爲めとして死なれたのでありますから、其死んだ人の後とが暮して行けるやうに致したいと思ひますから、皆樣にお話致す次第でございます、それてありますから皆さんがお襦袢の襟を二掛のを一掛にして、ろうして其の一掛づゝの入費を遺族の者に集めてやりますと、隨分澤山のものになるだらうと存じます、それで皆樣にお願ひしまして、どうかお襦袢の襟一掛づゝ遺族に贈られて、後の子供をして是から益々軍人になることを忌がらぬやうに致したい、どうか軍人になつて與れるやうに、日本の婦人の力を十分に借りたい、東京の方は陛下のお膝下に居られますから田舍の方とは違ふ、東京の御婦人方は自分がお芝居に行く金を貰ひましたら、三度御覽になるのを二度になされ、二度寄席にお出なさる所を一度になされまして、さうして戰死者の遺族にお惠み下さるやうに、私は偏に希望致すのでございます、

（完）



寄書

●趣味ある運動に就て

賛成員　松山傳三郎君

私は林君の「精神の衞生」を見て實に悦ばしく思ひました、全體御婦人方は、衞生と云ふことは御存じでも御實行遊ばさるゝと云ふことの缺けて入らせられるのは誠に殘念なことで、折角の智識を御自分でお捨てなさるやうなもので御座います、

滋養分を頂ひたから、お召服が奇麗だから、お住居が好く在らつしやるから、夫れで衞生に叶つて居らるゝと思し召すと大變なお間違で御座います、無論是等も衞生上、その主なるものでは御座いましやうが、精神の衞生が不完全では何の役にも立ちません、それは林君の御演說で皆樣御存じて入らつしやいますから申しませんて、その中の趣味ある運動に就て一寸申上げたいと思ひます、趣味ある運動が、如何に精神的營養になるかと云ふことは、今更申上げませんでも皆樣御存じのことゝ思ひます、

私が嘗て女子體操の草案を書きました時に、從來の體操があまり趣味がありませんで丸で器械的であるから夫れ等を改めまして、そして更に羽根つきや毬つき、繩飛びにお手玉遊等を奬勵しました、イ、エこれは遊戯以外で御座います、科外遊戯と名つけまして生徒が勝手に遊べく定めたので御座います、體操としてはお嫌ひなさる方々でも、遊戯としてはお避けなさる方々でも、こんな遊ひになりますと吾知らず遂お仲間入りを遊ばすもので、兎に角私は女子の健康を保持すべき爲に、多少の批難を甘じてこれ等を撰定いたしました、

夫れからアノ薙刀體操です、實驗せねば譯りませんと思ひまして親しく小澤さんに就て習ひました、また熟練はいたしませんがこれでも初段と中段だけはお笑ひ遊ばさるか知れませんが免許持で御座います、私は女學生の趣味ある運動としては、薙刀體操に及ぶものはなからうかと思ひます、女子大學でやつて居ります扇の體操も面白いさうですがまた見ませんから、私は何うしても今後女子體操が必ず一變するであらうと云ふことを信じて居ります、

併し如何に趣味ある運動法を攻究しましてもが、やつて下さる方がなくては何の甲斐も御座いません、學校に在らつしやる間は、先生もお友達も御一緒ですから、お嫌でも遂にさるやうになりますし、またさせられますが、サテ學校を出てからで御座います實際は學校を出てから後が、却て體育上最も注意すべき時であるにも拘らず等閑にする方が多いやうで御座います、恐らく是は、相手がなくなるので自然斯うなるのでゝも御座いましやうが、人の母となりますれば小兒を相手にいろ／＼の遊びも出來ますから知らず／＼の間に運動が行はれて居りますが、惜ひことには、最も大切な時機、即ち學校を出てから人の母となるまでの間に方て何うしても缺け易いやうです、何んとかこれを救ふ方法はありませんでしやうか、扇を持つて踊るのも可笑いし、薙刀を振り廻すも感心しませんし、と云つて趣味のある運動は、私は羽根つきを取ろうと思ひます、

羽根つきの遊ひて御座いますれば、親子の間にも夫婦の間にも兄弟朋友の間にも共通であるから面白くもあり、又廣い庭でも狹まい場所でも、多數の人にも少數の人にも樂むことの出來ると云ふ、最も趣味ある好い運動であらうと思ひます、

夫れて私はお正月ばかりでなく始終です、男女老

幼の差別なく心身の健康を保持する爲、趣味ある運動即コノ羽根つきの遊びを各家庭に奬勵いたしたいので、夫れが出來ますれば、老人と云はず小兒と云はず、旦那樣も奧樣も、舅御樣もお嫁樣も、御親類もお友達も、皆一團となつてこの樂しき遊びの中に、自然健康を得らるゝことであらうと信じます、殊にです、この趣味ある運動に添ゆるに、公德養成、衞生普及、學術研究等の面白い唱歌を撰定して、之れに調子を合せましたならば、更に一層、愉快であるばかりでなく、而も敎育上頗る大なる好果をも收むることが出來るであらうと思ひます、何うぞ皆樣にもこの邊に御注意下さいまして、なるべくお互に是非御實行遊ばされんことを切に希望いたします、

衞生叢談



○子宮病の話（前號の續）

Dr. N. N.

●腟炎の話

腟と云ふは陰門より子宮に到る間の事にて、腟炎と云ふは此の部分の病の一つなり、此の病にも亦急性と漫性の二種ありて、急性のものは腟赤く腫れ上りて痛み甚しく、其上に膿の流れ出る事も亦頗る强し、此病の原因は種々あれども、其の主なるは淋病なり、淋病とは恐るべき傳染病の一にして、淋疾複球菌と稱する黴菌が、尿道なり陰部なりに附着し此處に蕃殖して起る病にて、此の黴菌若し膿汁に混じて眼に入れば、彼の恐ろしき淋病眼即ち結膜膿漏を

起し、眼瞼赤く腫上り膿は絶へず溢れ出で、一見恰も彼のかさねの妖怪を見るが如き狀となるなり、其他又妊娠せる婦人にして、淋病即ち消渇に罹り居るとせんか、小兒分娩の際淋病黴菌を含める膿汁は、小兒の眼に入りて所謂ゆる新生兒結膜膿漏なるものを生じ、爲に失明するもの幾何たるを知らず、慈善心に富める貴婦人諸姉は、盲唖學校を訪問せらるゝの際、常に無數の不幸なる盲兒を見て、其の不幸なる境遇を察し、思はず涙に咽ばるゝ事ならんと信ず、嗚呼此等の不幸なる盲兒は己れ一の罪を犯せるなくして、母の胎内を出んとするや、直ちに母の病毒の爲に、其の一生を暗より闇に過さざるべからざるに非ずや、而して此の不幸の原因は即ち淋病黴菌なり、淋病の傳染するや、主として人より人に於てす、夫婦の間、夫淋病を病んか、婦は忽ち之に感染し、其の結果たるや唯に局部の疾病に止まらず、或は失明の原因となり、或は流産の原因となり、爲に一家團欒の睦みは解て破鏡のもととなり、或は盲兒を抱いて一生を泣き暮すに至る、實に恐るべきものは淋病黴菌なり、淋病の害たる或は腸窒扶斯の如く、或はペストの如く、或は虎列剌の如く、一見人をして戰慄せしむるに足らずと雖も、而も其害たるや實に此等の諸病に優るも劣らざるなり、

されば此の恐るべき病毒が膣に附着せる場合には、速に充分の治療を加へて禍を未發に防がざるべからざるなり、其他又膣炎の原因となるものは、蟯虫と稱する虫の附着せる物にも起り、或は種々の器械を使用したる爲にも起り、或は又熱き湯強き藥などにて洗滌したる爲にも起る事あり、

漫性のものは急性のものに比すれば、症狀遙に弱くして之を起す原因も亦た前者に同じくして、只た度の輕きのみ、又膣の塞がり方の惡しき爲にも起り、

或は又子宮に病ありて下物の多き爲にも起る事あり、其他又月花の閉止せんとせる際にも起る事あり、此の際には膿の流れ出る事強く、燃るが如き痛み及び搔痒を感ずるものなり、

腟炎の治療は先づ原因を除去する事第一なり、されば淋病の爲に起れるものならば、千倍の昇汞水或は百倍のリゾール水にて洗滌するを可とす、洗滌後ヨードホルムカーゼの一片を腟中に詰め置くべし、症狀少しく怠らば五十倍の硝酸銀液溶にて浸すも可なり、或は又百倍の鹽化亞鉛を僅かに暖めて日々二回つゝ洗滌するも可なり、若し他の原因にて起れる腟炎ならば、粗製木醋溶液最も効あり、其他又萎黄病の人などにては鐵劑最も効あり、兎に角素人療治は害多くして効少きものなれば、若し前述の症狀に鑑みて己れ腟炎に罹りたる事を知らば、速に適當の婦人科醫の許に馳せて、治療を受くる事最も安全にして而も治愈速かなり、努々此事を忘る可らず



●百日咳の話

Dr. S. G.

百日咳は恐るべき傳染病の一つである、而も此病は未だ抵抗力の弱い六七歳までの、小兒を最も多く侵すのであるから、其害惡は實に甚しいのである、而も世間には此病は尋常一樣の病であつて、別に心配する事はない、放置して置けば自然に治ると云ふ樣な、考を有して居る人が甚だ多い樣である、無教育なる下等社會の人々が、斯の如く思ふのはまだしもの事、充分敎育ある上流社會の人々の内にも、斯の如き誤解をせらるゝ方々が少くないのであるから、

此病の危險は愈劇しくなるのである、勿論傳染病とは云ふもの丶、百日咳ではまだ、或は結核とか或はチフスとかの如く、これを引起す黴菌が發見せられて居るのではないが、今日では此病が傳染病であると云ふ事は、醫師として一人たりとも之を疑ふものはないのである、現に一家で一人の子供が之に罹ると、忽ち其兄弟も傳染するのが常である、又幼稚園尋常小學校等で、一人百日咳患者があると、忽ち多數の子供が之に罹るのは、世間で屢々實見する處である、

尤も此病は通常豫後の良い方で、此病の爲に直接に命を失ふ子供は左程多いのではないが、此の病の危險なのは併發症即ち餘病を發し易いのと、假令百日咳は治つても、跡で種々雜多の病氣を遺し、其爲に子供は非常に衰へて、遂には生命を失ふに至るものが多いからである、勿論初めから充分適當な手當をすれば、假令百日咳に罹つたとて、餘病を起す憂も少く、其上に充分治癒して、恐るべき後病を遺す恐れもないのであるが、前にも述べた通り、世間の人は此病を恐るゝ事至て輕く、子供が之に罹つても、醫者にも見せず藥も飮ませず、學校にも遣れば他の子供とも遊ばせると云ふ風であるから、其内に病勢も募り餘病も發し、之に加へて他の小兒にも傳染させると云ふ樣な、不始末を引起すのである、勿論素人計でなく醫者でありながら、百日咳には適藥はない抔と云ふて、平氣で居る人々もあるそうだが、之は非常な間違である、勿論(前々號に述べた通り)マラリヤにキニーネが利く樣に、一服や二服で百日咳を治す藥は今日ではまだない、又血精療法で實布的利亞を(本誌第百二十五號)治す樣なよい良法も發見せられてないが、然しこれはチフスでも肺病でも同じ事である、抑も多くの病氣には一定の經過と云ふ

ものがあつて、此疾患を無難に通り越す事が出來れば、跡は漸々に快方に向ふのである、素人が病氣を山に譬へて峠と云ふ事を云ふが、之は實に適當な名稱である、百日咳でも此の峠を無難に通り越させるとが出來得れば、それで病氣は自然に治つて行くのである、此峠を無難に越せると越せないのとは、子供の體質に關係するとではあるが、去りとて又醫者の力も非常に關係するのである、弱い子供でも醫者が充分に手當をすれば、無難に峠を越す事が出來得るのである、記者は實に過る日不幸なる一例を實見した、それは都下の一紳士の愛息で、當年取つて五才の子供であるが、乳母の云ふのには、過日來百日咳に御罹りになりましたが、昨晩頃よりどうも熱が少し出まして、御勝れになりませんとの事であるから、之を診察すると最早や立派な肺炎となつて、患者は非常に弱つて仕舞つた跡であつた、斯うなると假令扁鵲倉公でも致し方がないだろうと思ふ、實に世間には此類が多いのである、されば我が會員諸姉にして愛兒を持たるゝ方々は、此例に鑑み、若し愛兒が百日咳に罹りたる場合には、速に良醫の治療を請ふ事を忘れてはならない、況してや此病は春夏秋冬季節の如何に關せず、丈夫な子供も弱い子供も貧乏人の子供も富家の子供も、斟酌なく一樣に之を侵すのであるから、

百日咳の徴候は玆に述べずとも、御承知の事と思ふが、ざつと話して見れば、此病の初期は通常の風邪と同じ樣であるが段々に咳が强くなつて、一週間から二週間も經つ中には、百日咳の特徴が現はれて來る、それは發作性の咳嗽と云つて、咳がのべつに出て、其間は只た呼氣斗が續いて適に深く吸氣をする斗りであるから、顏は暗赤色となり唇は紫色となり、頸には青脈が張つて、眼からは涙が出て、劇し

くなると咽や鼻から血が出る事もある、實に其狀態は如何にも苦しそうで、迚も見ては居られないのである、實際當人も非常に苦むので、子供に依ると大小便を漏すのもある、斯う云ふ苦みが二三分間も續くと、忽ち治つて平生の通りになる、此時に子供に依ると嘔吐するのがある、如斯發作は輕いのでは一日十回位であるが、重いのになると一日に五十回も六十回も起るから、子供の弱るのは無理ならぬ次第である、病氣が峠を越すと發作も段〳〵少くなつて、大凡そ四週間も經つと通常の風邪の樣になつて咳も減じて、二週間餘も經つと全く治つて仕舞ふのである、であるから初期から勘定すると、通常大凡そ八週間位で治るのであるが、長いのになると三月經つてもまだ治らないのもある、

百日咳の餘病は色々あるが、尤も多いのは肺炎である、其外又下痢を起して患者を弱らしたり、腦などに出血を起して、精神が侵されて遂に斃れるのもある、本來此病氣は熱のない病氣であるから、若し熱が出たらば餘病を併發したと考へてよい、

後病にも澤山あるが、主なるは結核、慢性氣管支加答兒、瘰癧、肺氣腫、貧血、脫腸等である、

百日咳の療治は醫者に任せるが最もよいが、家人の心得て置くべき事は、此病氣は傳染病であると云ふ事を念頭に留めて、病兒は他の子供等に近づけの樣にする事、又學校に登りたる子供なれば、勿論休校させる事、夏なれば病兒は空氣のよい野外に遊ばせて置くのがよい、併し餘り大きな聲を發せしめたり、強く驅け廻らしむるは宜しくない、病室は可成空氣の流通をよくせなければならない、又發作の間け額の處を手にて支へて遣つて、口から出た粘液は布片にて拭ふて遣るのがよい、併し之に用ゐた布片は燒棄ないと他に傳染させる媒介となるの恐れがある、

又百日咳の子供を介抱した人は、他の子供に接するに先ち、充分手を洗ふ事を忘れてはならない、

○結核自覺症狀及豫防法

福田泰造氏談

此談は福田氏の所說として時事新報に掲ぐる所なるが豫防注意の法を說き得て詳かなり今其要點を拔萃せんに

初めに傳染病は其發起せざる前にこれが豫防をなせばよく之を防ぎ得る者なりとて諸種の疾病に就きて例を取り且曰く獨り結核病(所謂肺病)に至りてはいつ何處で傳染したか少しも分らざる疾病なるが故に知らず識らず大患に陷いり遂に救ふことの出來得ざるまで自身の覺らざること多き疾病であるからよく注意して身体に現はれたる症狀をして身自から之を覺り醫師の診察を乞ひ醫師をして早く其病ひのある處を見出さしめ速かに治療を受くるときは左まで恐るべき病でない必らず治癒することを得又病の進みたるものにても漸く體力元に復して永く生命を保つことの出來るものであると思ふ云々と說き左の如く自覺即ち自から覺り知べるき症狀を列擧せり

(第一)體量の減ずるときに注意せなければならぬ然しながら又體量に關係なく太り來る人もありこれは後の症狀を見て知るべし又體格肥滿の人も注意を要す

(第二)消化器の障害即ち食慾が減ずるとか嘔吐があるとかを云ふ

(第三)心悸亢進、これは少し動きても動悸激しく又少し歩行しても息のきれるもの

(第四)頰部潮紅、これは頰のところの赤くなるものを云ふ

(第五)寒冒に罹り易し

(第六)神經痛、胸の痛みレウマチスの如き痛みを云ふ又肩のこるのも有り

(第七)蒼身症、これは顔面或は身體の青白くなるもの

(第八)朝夕の咳嗽又は咳嗽の長く續くとき又よく有ることであるが痰症だと云うて一向意に介せざる人あり注意しなくてはならない

(第九)時々不正の熱發、即ち譯もわからぬ熱が時々出ることあり

(第十)盜汗、即ち寢汗の出るもの

(第十一)血痰、これは血液の交りたる痰の出るを云ふ

(第十二)癜風と云ふて胸或は上腹の所に褐色の小さき斑が出來これを指にてかくときは粉末が落て來る斑らは皮膚より少しく高くなりてある者なり

(第十三)月經の閉止本病に罹りたるとき月經の閉止すること少なからず

(第十四)下痢の長く續きたるとき

(第十五)腹筋の緊張、即ち腹が常に硬く竪の筋が張りて居る者を云ふ又時々臍の部の疼痛を覺ゆ

(第十六)膀胱加答兒と云うて常に小便の色が濁りて出て時々血液を混じて出ること有りこれ腎臟や膀胱の結核より來る

(第十七)淋疾も患へざるに常に尿道より膿の出ること有り

(第十八)呼吸に甘き臭氣が有とき

(第十九)肋膜炎を患ひたる人は年を經て本病を起す者故に注意すべし

(第二十)關節炎、これは大きな關節即ち膝とか股とか足跗關節とか腫脹して疼痛も有り後には膿解する者なり

(第二十一)脊髓炎、これは脊髓に本病が附き骨が腐

蝕して脊が曲り骨が外部に隆起して身體が前の方へ屈曲する者て頸椎にこれが付きて脊髓を壓迫するときは手も足も麻痺し腰椎に有れば足が麻痺して遂には小便が出なくなり又大便も小便も出通しと云ふ様なこともあり

(第廿二)肋骨々瘍肋、骨の部に疼痛も餘りなく紅みもなく腫れて腫物となるものあり

(第二十三)耳漏と云ふて耳より膿の出る者あり又眼の角膜にほしの出來るもの有り

(第二十四)聲の嗄るとき

(第二十五)幼年者が背部上膊に長き毛を生じ而して皮膚枯燥して居るもの

(第廿六)皮膚の色澤、色の黑き人はその色黑褐色となり色の白き人は其色黄褐色となるとき

(第二十七)頸の周圍の水脈腺の腫張これは極めて小さくても注意せなくてはならぬものである

(第二十八)指趾の爪甲特に拇指の爪甲に異常を現はし來る本病の重症となる程彌々異常を現はし來る者てこれは爪甲の中央が凸隆して彎曲し來る者である又彎曲して竪より巾の廣き者も注意すべし余は結核患者十中八九は爪甲の中央凸隆し來ることを數千の患者に付きてこれを見出したり故に本病の進みたる人は爪甲を見て本病なることを知ることが出來る

(第二十九)チブスの如き熱の出るとき又マラリヤの如き熱の有る時

以上の症狀は結核病には必らずある症狀であるけれども他の疾病にもあるを以て醫師の診察必用より本病と定まりたるときは早く治療し又他に傳染せざる樣に豫防をせねばならずとて種々の注意を述べられたり是も又極く簡短に拔萃せん

●喀痰は必らず痰壺に吐くことゝなし痰器は陶器をよしとす直徑凡四五寸位丈もこれと同じ位にな

し之れに洗濯曹達を半分より少き位ひ入ること蓋はブリッキの樣なものにて作るべし●消毒其壺に一日又は數日喀痰したる後其中へ沸騰したる湯を入れ、一晝夜置きて後すつべし●煙草盆の吹殼を入れる者には痰を吐かざること●此灰吹を井戶の傍で洗ひ流すなどは極めて危險なることにて之より傳染すること多かるべし●何れの家にも痰壺を備ふべきこと、本病に罹りたる人は可成病院に入るをよしとす、已むを得ずして家に居るときは室を別にすること●談話するとき咳嗽をするとき「クサミ」をするときは必らず布片で口を覆ふこと●肺病患者は常に手を清潔に洗ふことを務むること●室內は空氣の流通をよくすること日光のよく入る樣にすること●毛布机かけの如き「バチルス」の附き易きものは室內に置かざること若し止むを得されば始終日光に晒すべきこと●掃除をなすには塵をたてざる樣になし二十倍の石灰酸水に布片を浸し疊障子のさん鴨居等をふくべし●患者の衣服は攝氏百度の溫度にて五分間以上消毒すること●傳染の道は常に呼吸より來るもの多しと云へども又食物より來る乳母や母が小兒に食物を嚙みて口うつしにすること尤も危險なり●又茶碗や箸や匕や自分の食せし器を其儘消毒もせず使用すること又同じ其他菓子製造所團子や飮食店等の食器消毒の必要及野菜の如き生にて食すること銀行の紙幣を數ふるとき手に唾を付くること錢や紙幣切手等を口に含むこと●牛乳飮料水の如き其儘使用すべからざること●小さ傷に注意すること小兒に出來るエキセマ俗に「くさ」の如きは傳染の媒介を爲すものなれば是等のことは自から覺りて充分の豫防を爲すべしとなり

尙去二日本年例會に於ける北里博士の肺病に關す

る誤は校正済次第本誌に掲出すべく兩者相待ちて參照せば益し其益ある所少からざるべし



看護法

普通看護法（第十四）

在大學院 Dr. T. S.

●藥の話（前號續）

○外用藥の話

外用藥と云ふのは前に申しました通り、皮膚や口咽喉、眼、鼻、耳、膀胱などの粘液に、働かせる藥で御坐いまして、これを用ゐますのには、或は吸入をさせたり、或は含嗽させたり、或は點滴したり、或は刷毛で塗つたり、或は撒布したり、或は擦込んだり、或は貼付したり、或は注射したりするので御坐います、

（一）吸入させますのには、藥に由りましては茶碗に湯を入れて其上に藥を入れて其上で口を開けて呼吸をさせても宜しう御座います、藥に由りては又吸入器と云ふ器械を用ゐます、此器械は圖に在ります通り、アルコールランプで湯を沸し、其處で出來た蒸氣の力で、藥を霧の形にして喉に送るので御座います、

（二）含嗽させますのは、主に喉や口に病氣のある人に行ふので御坐いまして、先つ喉に病氣がありとすれば、一ト含の藥を口に含んで、頭を後に傾けてから口を開けて、ルルルと云はせれば宜しう御座います、口の中に病氣がありとすれば、同じく一ト含の藥を含んでから口を閉ぢて、舌と頰をあちらこちらに動して藥を動搖させれば宜しう御坐います、勿論部屋の中で含嗽する場合には、豫め藥を吐き出す器物と

口を拭く布片とを用意して缺かなくてはなりません、小兒には平生より水で含嗽する習慣を付けて置くと、口中が常に清潔で、從つて齒痛を患ふる事が少く、喉も丈夫に成て風邪をひく事が少く、其上若し喉や口中に病氣がわつた時に、直に藥で含嗽させる事が出來ます、含嗽劑の種類、分量及び咳嗽する度數は、其都度醫者に御問合せになるのが宜しう御坐います、通常は二三回以上五六回位で御坐います、

(三)點滴するのは、主に眼や耳や杯で御座いまして、之れには點藥管を用ゐるのが最も便利で御坐います、之は硝子の管とゴムから出來て居りまして、指でゴムを壓して硝子の先端を藥に浸して後ち、指を放しますと、藥が硝子管の中に騰ります、之を眼なり耳なり點滴しようと思ふ部分の上に持て來て、再びゴムを壓しますと藥が落ちます、此際注意して硝子管の先端が、決して局部に觸れぬ樣に致しませんと、跡で藥が濁ります、

眼に藥を點滴致しますのには、病人を仰向きに臥せますか、或は頭丈け仰向けにならせまして、右の人差指で下瞼を輕く下たに壓して、左手で點藥管を持て眼の中に藥を點滴しますと宜しう御坐います、或は又眼瞼を閉ちさせて置て、内眥の處に二三滴の藥を點じて後ち、眼を開けさせても宜しう御坐います、耳の中に點滴するのには、其方の耳を上にして綿を少して綿を少し斗り丸めて栓をかつて置けば宜しう御坐います、

(四)藥を塗りますのには、刷毛で塗るので御坐いますから、別に六ケ敷ことは御坐いませんが、只だ爰に注意を要しますのは、コリヂュームと云ふ藥の合劑を指に塗る時には決して指の周圍を悉く塗つてはいけません、之は血が通はなくなりまして指が腐れる

恐れがあるからで御坐います、又此薬は容易く火を呼びますから、火氣の傍に置いてはいけません、コロヂュームの皮膚や刷毛に付着したのは、エーテルと云ふ薬で洗へば落ちます、此薬も亦火に近付ると危険で御座います、鼻の中に薬を塗りますのには、病人を少し仰向かせ、左の拇指で鼻尖を少しく上に壓へて、薬を付けた筆を鼻の中に入れてから、鼻翼を壓へて後ち靜に筆を引き出すので御座います、

口の奥に薬を塗りますのには、少し柄の長い刷毛が入用で御座います、之れで薬を塗りますのには、口を開けさせて、匙の柄で舌を壓へてから、刷毛を入れば宜しう御座います、

刷毛は決して薬の壜の中に入れてはいけません、先づ薬を壜から他の器物に移して、此中に刷毛を入れるので御座います、又異なりたる薬に同じ刷毛を用ゐる事は止した方が宜しう御座います、其他又刷毛は使用後奇麗に洗ふて置く事も忘れてはなりません、

（五）薬を撒布致しますのには、撒布器を用ゐれば、最も便利なので、之は醫療器械店に賣つて居ります、併し此の器械がなくとも指て摘んでふり掛けてもよし、又篦匙などの尖端に薬を載せ、或は刷毛の先き綿のたば杯に薬を付けて撒布しても宜しう御座います、但し鼻耳口の中などに薬を撒布するには、撒布器を用ゐませんと、中々甘くまいりません、其他又撒布しますのには餘り近くで撒くと、薬が充分散りません、



食物調理法

内外實用料理

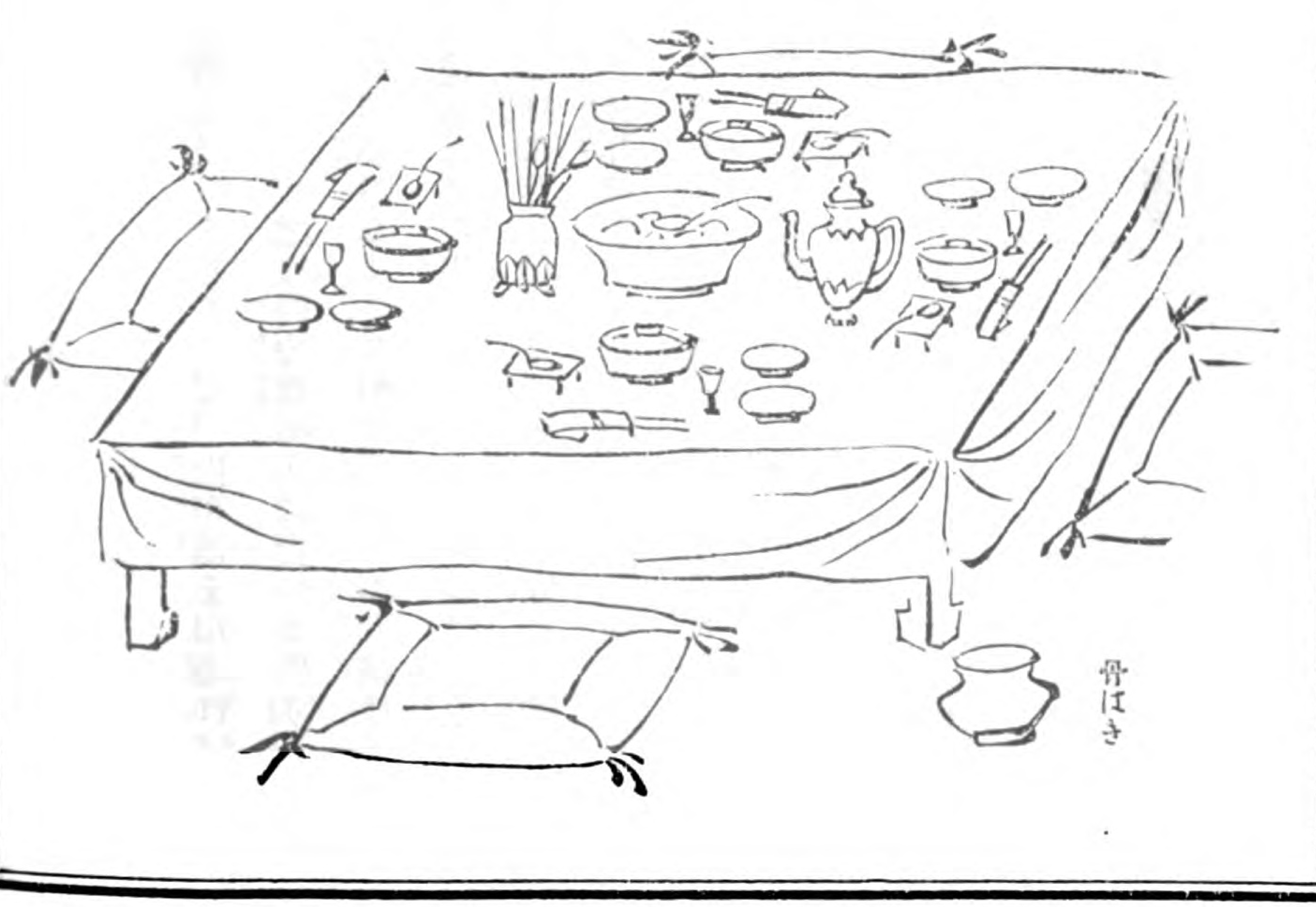
横井たま子

●卓袱料理

卓袱とは、支那風の料理に用ふる卓の名にして、則卓子の唐音といふ、卓面四尺四方、高さ三尺に作り、帛に刺繡ある卓維を被け之に箸皿をならへ主客四人を定數となし椅子に掛り飲啖す、

食物は、大菜、小菜と分かち、大菜は通常五種又は七種とし小菜は通常七種又は八種とす大菜又は大椀と稱し、引き替へ〳〵出だす、小菜は小皿に盛りて備ふ、立客銘〳〵盤中の菜肉を倶に取りて食ふ、式に曰はく我が箸を椀中に置くこと勿れ、菜肉は小皿

シツポク料理飾附



に受けて食し、匙にて汁を吸ふべし、匙は左りの手に持つべし、骨ある時は小皿に出し渣斗に入るべし云々、但し渣斗は卓の下に置くなり

大菜の器を大碗又は盤と稱し、小皿を碟子又は皿子と稱し、汁椀を蓋碗と稱し、鐙注器を耐瓶と稱し、杯を酒鍾又は單提と稱し、猪口を十景套盃と稱し、敢蓮花を湯匙と稱し箸を牙筋と稱す但し箸は白紙にて包、細き朱壺紙を卷き、福祿壽の三字を書す

長崎にて行れし式は椅子を用ひ他は大方座して卓に對せり、故に卓の高さ一尺一寸五分に作りたり

大菜、小菜料理法は採りて用ふべきもの尠からず、依りて今爰に長崎にて淸人の製したりといふ卓子式及び長崎四時卓子式より拔粹し或は日淸洋の料理を取交之を折忠して獻立を作り試みんとす、卓子は椅子に掛るも又座して食するもそは隨意になし給へ

●大菜五種の獻立

一紅魚鱠（松茸 芹 柚子）

鯛はうろこと、わたを去り二ッに切り、油にてあげ鰹だしをたつふり鍋に入三林と淡醬油にて煮、松茸は土付きを去り皮をむき程よくたてに切り鹽水に浸しよく洗ひて鯛と共に煮、芹も湯でゝ揃へ三分位ひに切り、素麵の湯てたるを鯛の汁にてあたゝめ大なる鉢に鯛を入れ其上に素麵を置き汁も入れ、松茸、芹を上置きにかけて出す、之を銘々ふかき中皿又は椀に盛りて食すべし

二牡蠣揚

麥の粉に玉子一個をつぶしよくかき交ぜ、水を水しツ、注して餘りうすからぬ樣にとかし鹽と砂糖にて淡味をつけ、すり生姜の汁のみをしぼり込み、牡蠣の水氣をしため麥の粉とかしたる中へ入れてかき交ぜ、大なるは二つ、小なるは五ッ位ッ、金杓子にてすくひ油の沸立たる時あけ、あたゝかな

る内に人數前ッ、鉢に盛り出す

三　鷄

鷄を骨つきのまゝ大切り、大根大輪切り面とり、にんじん花形切、松茸、始め水少し入三杯、醤油薄味にて一時半程にて鉢に盛り出す、

四　海鼠

にんじん、せんぎり生姜小葉形に薄ぎり上置き三杯酢

但しにんじんはざつと湯でたる物

●點心

五　百合餅

ゆり根を湯煮して摺りくだき葛粉、砂糖を合せこね、方にして蒸し切りて適宜の鉢に盛りて出す

●蘭茶　出し茶なり

●水菓子　林檎

以上

但し點心の前に飯に積物を添へて出すも隨意なり

中外彙報

●運動と長壽

大醫ベルッ氏曰く余は日本へ來りし以來茲に二十五年其間いろ〳〵の經驗を得しが身躰の壯健を保もつは食物も衣服にも關すれども運動は一番必要なり何故かなれば餘り精神を使ひ過ぐるときは腦へのみ血液の集まる其時運動ていろ〳〵に身躰を動すときは始めて手や足に血が循りて大に効あり夫れ故に余は初めより大學の生徒に運動の事を勸めました兎角上流の人は早く年を老る身躰が惡いのでなく養生の足らざるが故なり英國のヴヰクトリヤ女皇や獨逸のビスマルク達は八十餘歳皆よく躰育を勉めたるが爲のみ我が井上伯の如き一時身躰虛弱となりが余の勸めにて運動と水浴をする樣になりし以來大に强壯とな

り今六十餘なるも無病壯健なり故によく運動するものは年老つても身体は若い云々

●日本人の体格と壽命　博士高木兼寛氏の講話の一節に曰く今の日本國民の樣に身幹が矮少で體格が薄弱で壽命が短くては到底勝を占めることは出來ぬ、といつて神武以來歴朝十六代の至尊の御在世の平均を見ても百六歳の長壽であらせられたるを見れば全く其以後漸次惡くなつたので今は情なくも世界の二十一番目に當ることゝなつた而して今日の壽命の平均數は僅かに四十年、コレでは莫大の費用をかけて修業しても用ふる處は十年しかないこれでは生存競爭に負けを取るも不思議はない英國などは研究苦心の結果現に**最近六十年內外に十ヶ年の壽命を延ばすことゝなつた**我國でも追々体育が盛んに行はるゝことゝなつたによつて大分寸尺が揃つては來たとて中學生の体長を比較し實例を示し又更に生理學上完全な身幹の比例は恥骨を中心として上下半身の丈が平均を得て居るもので即ち丈けの短きは下半身の發育を害して居るからであるとて尙又實例を擧げいよ〱敷衍して腦も眼も耳、口、舌、肥等其他人間の体は皆運動の練習によつて發育するものなりとてそれより發育を完全ならしむるには、衣食住の三者に就て生理的に適した生活をする外ならずと細詳に演述せられたり

●隈川博士と長距離競爭　去る九日時事新報社にて企てし長距離競爭を好機會となし隈川博士は人体と飲食物との關係を學理的に試驗せられしとの事なるが今其方法を聞くに競爭當日は更なり其前後とも飲食物及び排泄物を嚴重に試驗し置き當日は十二時間の長距離運動を間斷なく經續せしめ其間飲食物を攝取するには頗る注意し其分量等精細に秤り後五日間の分析表を比較對照して人体が此長距離の運動を

仕遂くるには果して幾許の食料を要するや精く言へば食物中の澱粉質蛋白質及脂肪が如何なる作用をなすや又尿中の窒素等を量りて其蛋白の排泄等のことを測定し又關接には學者間未決の問題たる如何なる食料が長時間の運動に適當なるやの疑問にも好材料を與ふるを得べしといふ其撰に方りては醫科大學の學生なる木下東作氏なりといふ只多數の人を試驗せざるは博士の遺憾とせらるゝ處なりといふ

●警視總監の訓達　大浦警視總監は此の程警察署長會議に於て左の事項議決訓達したりと云ふ

一寄席風俗取締方を嚴重に勵行すること
一盜難豫防の爲め各戶に於て戶締を嚴重にすべき樣注意說諭すべき事
一近來新聞紙の賣子には世人の惡事醜行を記載したる新聞を發行せし當日關係人の處に持ち行き強て買はしめ買はざれば高聲にて讀上くるものを嚴重に取締ること
一惡書生の取締を嚴重にする事
一人力車夫が通行人に對して強て乘車を勸むる等不都合の行爲を取締ること
一股脚を露はし若くば帶解の儘にて通行するものを取締ること
一宿屋に於て旅客に用る夜具枕等に覆ひを爲さしめ可成衛生上に注意すべきこと

●萬國結核豫防中央局創立　此度テーデンケルハルト、フレンケル諸氏創立委員として伯林に萬國結核豫防中央局を設立する事となり此程北里學博士に其通信委員たらん事を求め來りたる由なるが其目的は各國に於る結核豫防上に關係せる總ての報告、結核豫防上の一般歷史的材料を蒐集し官署の諸問に應じ豫防策の研究と弘布とを計るものなりと

●人は不死を望むものなりや　人の死は靈魂に如何なる變動を與ふべきかとの問題は人類ありて以來幾度となく繰返されたるものなれども宗教的說明の外未だ曾て之が解釋を與へたるものなく今後も恐らくは之を解釋し得ざることならんが米國の心理學協會は死が現時の人々に對して如何なる觀念を抱かしめ居るかを研究せんため此程左の如き諸問題を提出して普く世人に回答を求めたり

一、「死」の後に生を望むや否や
二、若し「死」の後に生を望むとせば如何なる狀態のものにても之を拒まざるか
三、「死」の後に生を望むも或る狀態の生を望むとせばそは何如なる狀態なるか例へば今日の生涯に多少同じきものなるか

四、心身の中不朽の性質を有するものありとせばそは如何なる部分なるか
五、以上の答に其理由を說明せよ
六、不死の問題は汝の安心立命に必要なることとなり
七、此等の問題に就き曾て今日と考を異にしたるものありやこれありとせば何時如何にして遷りたるか
八、未來の生活に關して確信する所ありや又は單に信仰の爲め說使と認むるや

（萬朝報）

●肺結核の新療治　ニューヨークの名醫なるフラリック博士は今般肺結核の新療法を發見し該市第一流の醫伯十二人の前に於て之を試驗したるに全く好結果を得たるを以て當時同氏の名聲米國に嘖々たりといふ氏は此療法には七年間の經驗を積み二百人の重症患者に應用して其大半を全癒せしめたりといふ、記者偶々北里博士に邂逅此事に及びたるにコレハ中々に強烈な藥を注射すること故に劇烈なるものなり米國にては兎角新規なる事と言へば燥ぎ立てること故に充分の研究を要すべきものなりと

●本年の傳染病　本年一月一日より十月三十一日に至る十ヶ月間に於て警視廳第三部の取扱ひたる傳染病患者總數は

一虎列剌	市四人	郡二人
一赤痢	市三百十一人	郡百十四人
一腸窒扶私	市八百三人	郡三百五十二人
一痲疹	市二十四人	郡二人
一猩紅熱	市八人	郡二人
一實布垤里亞	市四人	
合計	市千九百三十六人	郡六百七十六人

總計二千六百十二人

にして之を昨年の總數市二千三百一人郡九百八十五人合計三千二百八十六人に比すれば實に六百七十四人の減少なるが本年は年末までに尚ほ全二ヶ月を餘すを以て兩月の患者數を加ふるも尚ほ昨年に比して多少の減少の結果となるべしと云ふ駒込病院の如きも臨時病院は遂に開設するの必要なかりしは近來に無き珍らしきことにて蓋し衛生の進步に伴ふ結果なるべし

●産婆證明書授與　東京府に於て當期施行せる産婆試驗志願

者中學術試驗に合格せし七百四十四人に對して過日來實地試驗を行ひしが去月廿七日全く終了し内國人十四人外國人一人の及第者あり又前期に於て實地試驗のみ不合格なりしものに對し是又過日實地試驗を施せしが其及第者二十五名ありて何れも去月三十一に證明書を授與せしといふ

●胃癌の切開施術　癌種は結核と同じく不治の症として醫學社界にても持餘せるは人の知る處なるが此に芝區高輪南町五十二番地に住む瀧澤直作妻阿ふさ(四十九)が胃病にて昨年九月胃腸病院長長與稱吉氏の診察を受け其胃癌なる事を確め胃の中央部を切斷せば或は全治するやも知れずとの事にて本年七月同院に入り翌八月十九日醫科大學教授近藤博士自ら此の手術を擔任し胃の中央部三寸計りを胴切にして取り除け其兩端を合して縫ひつけて治療をなしたるに其經過大によく氣色普通に復し九月卅日に至り全治退院したりと云ふ

●唾液の有毒　巴里の醫科大學教授チヤルリン、マウシユ兩博士は或る下等動物の唾液に毒性を含有することの新事實を發見し世に之を發表したり今兩博士の實驗して之が有毒な證明したる次第を聞くに馬牛犬等の如き動物より唾液を取り之に四十倍の水を混合し暫く掻き雜ぜて之を濾過し而して後ち其濾過したる液例躰の小量を兎の耳に注入したりしが一二分間を出でずして兎は忽ち殺されたり更に其死兎を解剖して毒性の働きし跡を檢査したりしに血の凝結を起して其循環を停止せしに因れることを發見したりと云ふ

●横濱に於ける腦脊髓膜炎　一昨流行の模樣ありて兒女を有する家にては何れも安からぬ思ひをなせしが一般に注意せし爲め其後新發生の患者もなく先づ此分にては流行する樣の事はあらざるべしと

●肺病患者の飛沫の危險　多くの人の中には常に口中に泡沫を蓄へ談笑の際身邊に之を吹き飛ばすもの少なからず之は健康なる人でも餘り氣持の好きものにあらず况して肺病患者などにては實に危險を感ずるゆへ吾々は斯る場合には大抵此邊へ飛ばしたりと思ふ所の疊若くは座布團を消毒し來りしが外國にてもコニーゲルといへる學者は肺病患者が其恐るべき毒原を含める口中の泡沫を談話、咳嗽、噴嚔の際幾何の距離にまで吹き飛ばすかを試驗したり即ち風の入らざる室内に於て或る一定種類の細菌を以て

試みしに咳嗽等によりて其人の口中より飛ばしたる細菌は七「メートル」（彼是我が四里餘程）の距離にまで達し高さ二「メートル」（六尺六寸）に達することを確に證據立てたりと云ふ

●癩病系統と患者　現今本邦に於ける癩病系統は九十九万九千三百人、現在患者三万三百五十人なるが最も多きは兵庫縣にして系統六万二千六百八十六人現在患者千〇五十四名之に次ぐは宮城、靜岡、熊本縣にして何れも系統五万人以上なりと云ふ

●法醫學會の山根氏　山根氏の講演中二三面白き節あり

（一）跣足にて步行することを禁じてより之に觸れて說諭を受けしもの千九人處罰せられたるもの三百八十人なり是れペスト病の豫防に出でたるものなるが靜岡縣は風紀上今後とも此法を勵行する積なりと

（二）去る三十年より三十四年迄狂犬の數百八十四、人の噛まれ死せしもの百七十人、打殺したる犬千二百〇五、犬の現在數六千二百二十三匹なりと

（三）自殺人の自殺は勝手なものにて便利的にやるもの丶如し故に夏は多く溺死し冬は多く縊首す

●西班牙と火葬　從來西班牙にては宗教上の理由よりして法律を以て火葬を嚴禁しありたるが今回之を解きて新に火葬を許可しマドリッド府に火葬場を設くるに至りしが之に關する攝政皇太后の勅諭に曰ふ、今政府が古來の習慣を脫棄して火葬を許可するに至りたるは要するに衞生上の必要に促がされたり、蓋し國民の衞生は今後等閑に附すべきにあらざればなりと

●痘苗の値下げ　內務省にては昨日の官報を以て痘苗賣下規則中第五條を改正し從來一具五錢宛を以て賣下げたるものを來年度よりは市町村又は之に準ずべき團體に於て施行する種痘用のものに對して一具二錢五厘に値下げしたり

●東京市衞生試驗所と技手の任命　建築中なる東京市衞生試驗所は工事進行し不日落成すべきを以て同所の高給技手として製藥士八木長務昨日任命せられたり

●府下の牛乳　本年は鵞口瘡やら牛疫やらにて牛乳商は大打擊を受け販路も非常の影響を被むりしとのことなるが秋冷の候に至り諸疫病の終熄すると同時に飲用者にに増加し各牛乳商は何れも不足を感じ居る

程にて中には「コンデンスミルク」に牛脂など加へ誤魔化すものありとの事なれば牛乳飲用者に大に注意を要すべきなり

●昨年中の檢屍數は左の如しといふ

●檢屍の數二千三百七十四　●此內精神病六百九十七名
●溺死三百九十名　●轢死百十四名

路傍の醉ひ倒れは近來大に減少せり是一は酒價の增加による結果なるべしといふ

●世界中の長壽者　某醫學者の調べによれば百歲以上の長命者は左の如しと

獨逸人口五千五百万人中	百歲以上のもの	七十八人
佛國人口四千万人中	仝	二百十三人
英國	仝	百四十七人
愛爾蘭	仝	五百七十八人
スコツトランド	仝	四十六人
瑞典	仝	〇
セルビア人口二百二十五人に對し	仝	五百七十五人

現今阿弗利加のリオ、ゼヂイローニ住居するブリスユノコツトリムと云へる人は世界中の最長命者にして今年百五十歲(現存)次は先頃死去せし「モスコー」の一御者にして百四十歲まで生存したるものなりといふ

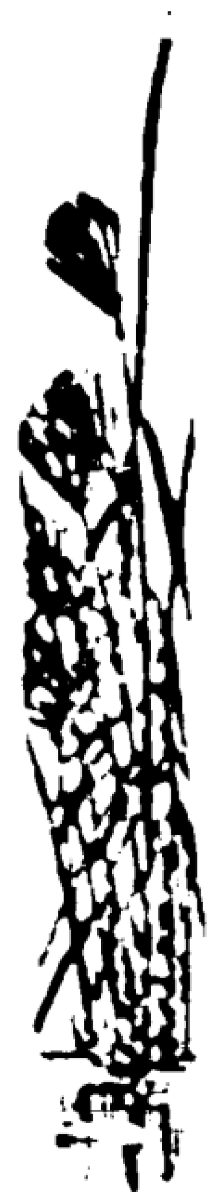
●發狂と氣候其他　最近の統計によれば發狂者は冬季に尤も多く夏季に最も少く患者の境遇は既に婚姻したるものに最も多く未婚者之に次ぎ男狂は未婚者に多く女狂は既婚者及離婚者に多しと發狂者中には佛敎信者多く●遺傳男子は多く父方より女子は多く母方より遺傳す●發狂原因男子は家計の困難、落膽より來り女子は家人の死病、恐怖、驚愕より來るを多しとす

●御斷　前號御約束のナイチンゲール女史訓戒は次號に讓る

大日本婦人衛生會記事

●本會十一月例會

十二月二日第一土曜日午后一時より麹町虎ノ門内なる東京女學館講堂に於て例會を開たり總裁宮殿下には御差支のあらせられて御臨場御見合せの趣き仰せ出されたり醫學博士北里柴三郎君には先づ氏の專門とせらるゝ傳染病に就て概說せられ延いて傳染病中其尤も恐るべき肺結核に就き世間多く注意せざる豫防法を詳細に演述せられ、第二席には醫學士笹川三男三君皮膚の衛生に就き鉛毒の害より自然の美に說き及ぼし終りに皮膚の構造等を說明せられ四時頃閉會せしが此日役員には鍋島會長、濱尾副會長、幹事高木かう子、岡田楙子、松平芳子、三浦敎子、評議員には松前藤子、松井正子、吉武輝枝子、緒方悅子諸氏をはじめ會員四十餘名出席せるに女學館學生の又多數加はりて傍聽者は三百餘名なりき



●宇都宮支會の例會と園遊會

同支會にては去月二十五日同市高等女學校内に於て例會を開き淺田學士渡講師出席淺田氏は傳染病に就き渡氏は乳齒の衛生に就き講述せられたりといふ

宇都宮支會園遊會　去月中開會の筈なりしが定日兩度共折惡しく降雨なりし爲め本月三日天長節の佳辰を以て市の北郊八幡山と云へる幽邃閑雅の地をトして開會せしが來賓には淺田學士、吉永、中里、渡、の諸講師連も臨席せられたりと當日の餘興には蓄音機にて種々面白き音曲唱歌等を奏せしめ松林芝生の

下には壽司、うどん、いも、志るこ、せんべい等の屋臺店をしつらへ來會者に供し又數十番の福引等ありて何れも頤を解き各々歡を盡して散會せしは午後五時過ぐる頃なりしといふ

因に記す　壽司うどんや其他の屋臺店は接待會員有志者の寄附に係りしものなりと尚當日出席の講師よりも金四圓の寄附ありしといふ

●茨城支會の創立

豫て本誌に記載せる茨城支會設立のことは水戸市なる濟生病院長波多野學士高等女學校長なる豐田芙雄子女史其他水戸市有力の婦人淑女の斡旋により今回いよ〳〵創立の運に向ひ發起人數十名を得たり其人名左の如し

河野芳子　波多野もと子　小野まつ子　吉野とら子　大橋ひさ子　大井ふぢ子
豐田芙雄子　西野きく子　渡邊あき子　田所やす子　大高つる子　大井すゞ子
岩田たき子　本間てい子　鹿島のぶ子　內林ふじ子　大沼こう子　大森じゆん子
池田とよ子　小田うめの子　加藤しづ子　井手のぶ子　大井きゝ子　楠原むつ子
藤木銑子　五藤ゆかり子　櫻井ゑい子　檜山ひさ子
矢板はな子　枝ちよ子　岸つね子　杉浦たけ子
堀子てつ子　佐々田いと子　宮本とき子　鈴木はな子
小泉きく子　佐藤　子　柴田なつ子　鈴木せき子

右發起人諸氏は去月六日（第一日曜日）發起人會を開き規則其他左の相談を爲せり

一、規則撰定　二、役員撰定　三、將來の雜件

當日の出席者は河野、豐田、本間、櫻井、小田、井手、鈴木兩氏、池田、楠原、小野、鹿島、藤木、渡邊、岸、矢板、內林、五藤、大井、大沼、波多野學士等二拾一名なりしと

●投票による役員撰定の結果左の如し

會長一名　河野芳子

副會長一名　豐田芙雄子

幹事六名
小田うめの子　加藤志づ子　鈴木はな子
鹿島のぶ子　小野まつ子　五藤ゆかり子

評議員十名
櫻井ゑい子　井手のぶ子　鈴木せき子
池田とよ子　楠原むつ子　藤本銑子
矢板はな子　大井すゞ子　枝ちよ子
大森志ゆん子

贊成員
贊成員衞生顧問　醫學士　波多野惇
鈴木　惠　　小林元茂　　神長　誠
本間包三　　山方八十太郎　　山縣直藏

久保田悌　三澤齋　村松正
谷川稲次郎　秋元洗三　猿田浩太
原　寛　村田博　鈴木鍊平
關　行敏　木山平太郎　稲谷忠
山田玄弘　坂本亭

●新潟支會の慈善市非盛况は〆切後報告の故を以て次號に收載するゝことなしぬ

衞生　深澤清賢君

たらちねのたまものなりと思ひつゝ
朝な夕なに身をやまもらむ

●本會入會者

○事務所へ中込

●本鄕區本鄕一丁目十六番地田中庄吉氏方　通常會員　淺海翠子
●長野縣東筑摩郡松本村飯田鈴木元長方　通常會員　岡村まつ子
●府下豐島郡巢鴨村字金杉二百七十九　贊成員　松山傳三郎君
●朝鮮國仁川港日本居留地第五十九號　通常會員　小野文子
●麴町區麴町三丁目二番地河村方　通常會員　吉本きぬ子
●麴町區富士見町一丁目二十一番地　通常會員　眞崎まつ子
●神田區淡路町淡路小學校內　通常會員　星野てい子
●佐賀縣師範學校女子部寄宿舍　通常會員　奧村禎子
●佐賀縣立高等女學校內　通常會員　永淵政清子

●但馬國美方郡湯村曾良　通常會員　岡田敏子
●麴町區富士見町三丁目三十六番地　通常會員　横山蕤子
●山形市旅籠町八十四番地　通常會員　服部さき子

○千葉　加藤[illegible]子紹介
●千葉縣佐原町昌平町　通常會員　石井勢い子
●仝所　通常會員　關根うた子
●仝所　通常會員　安川いせ子

○大分　安山鹿兒紹介
●大分縣立大分高等女學校內　通常會員　梶ちせ子

○宮城　松住臨太郎君紹介
●仙臺市北三番町百九番地　通常會員　岩田きく子

○特別會員　松井正子紹介
●牛込區若松町百三十七番地　通常會員　梅津禮子

○長崎　玉林わや子紹介
●長崎山本赤十字社支部看護婦生徒寄宿舍　通常會員　池田證子

○四谷　伊藤香子紹介
●四谷區北伊賀町廿六番地　通常會員　玉井たき子

○岐阜　加藤啓夫紹介
●岐阜縣安八郡名森村大字森部百九十四番戶　通常會員　岡田ます子
●岐阜縣稻葉郡日置江村大字茶屋新田　通常會員　武山志う町

○茨城　小松崎小七郎君紹介
●茨城縣新治郡鹽川村大字石川　通常會員　小坂部せい子

○麴町　遠藤よし子紹介
●麴町區內幸町胃腸病院內　通常會員　猪よしの子

○淺草　門井愛子紹介
●麴町區飯田町四丁目二十一番地　特別會員　橋本とよ子

○下谷　荒木てつ子紹介
●下谷區中根岸町九十番地根岸館　通常會員　氏川せい子

○本鄕　森もと子紹介

●本郷區第一醫院　通常會員　益田鉦子

○本郷　澁谷倭子紹介
●本郷第一醫院　通常會員　横田よしの子

○幹事　中濱芳子紹介
●芝區三田四國町八番地　通常會員　松岡茂登子

○終身會員　清水志津子紹介
●下谷區中根岸町四十一番地　終身會員　清水とく子

○事務所申込
●福岡縣門司市丸山郷吉岡支店内　通常會員　藤岡馨子
●淺草區小島町築山堂病院内　通常會員　平田きみ子
●麹町區飯田町二丁目廿三番地　通常會員　永野田鶴子

○小石川　中村春子紹介
●本郷區彌生町三番地ほノ十四號　通常會員　三橋菊尾子

○宇都宮支會入會者

○渡講師紹介
●栃木縣那須郡太田原町田崎病院内　通常會員　金丸すみ子

○福田よし子紹介
●宇都宮川向町　通常會員　知久くに子
●仝所　通常會員　齋藤とき子
●仝所　通常會員　水野しげ子
●仝宿之町　通常會員　青木しか子
●仝傳馬町　通常會員　齋藤よし子
●仝池上町　通常會員　長澤さく子

○溝部いく子紹介
●仝西餘町　通常會員　篠崎あい子

○船田きみ子紹介
●栃木縣芳賀郡北高根澤村　通常會員　宇津のぶ子

○仝事務所申込
●仝[illegible]山町　通常會員　船田きみ子

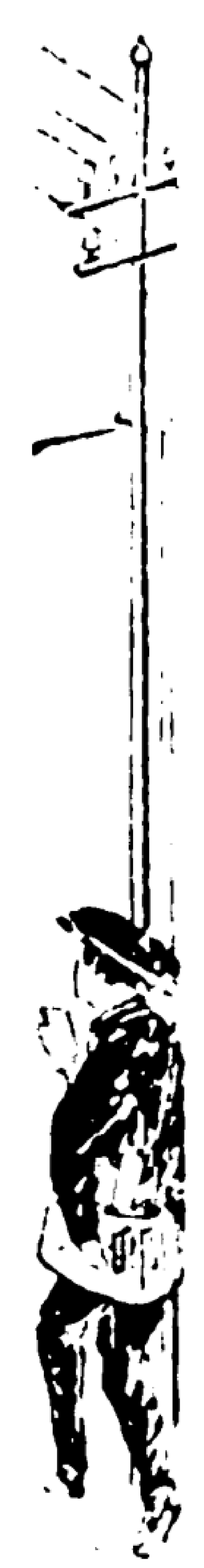
●栃木縣上都賀郡鹿沼町字中町　通常會員　山口きよ子

◉新潟支會入會者

○會長　小柴きく子紹介
●白山浦二丁目　特別會員　岡村とらゑ子

○幹事　加藤かう子紹介
●寄居町　特別會員　青木たか子

同會員種類變更
●上大川前通り　舊通常會員　特別會員　江部貞子



轉居

△會員諸氏御轉居の際は乍御手數事務所宛必ず御一報相願候

●長崎縣佐世保赤崎免二百四十六へ　志水貞子
●下谷區根岸町百十七岡田龜次郎方へ　田口岩子
●本郷區向ヶ岡彌生町三番地櫻井病院内へ　中島峯子
●本郷區西片町十番地はノ一號へ　關根小枝子
●長崎市東上町五十九へ　玉林わや子
●廣島縣立忠海中學校へ　美島近一郎君
●甲府市太田町公園内へ　佐藤雅子
●麻布區東町二十四番地へ　酒井國子
●麻布區材木町六十四番地へ　山口まきよ子
●廣島縣豐田郡忠海町七二九へ　田坂あや子
●豐多摩郡千駄ヶ谷村字原宿百七十八へ　淺野かま子
●丹後國舞鶴鎮守府乙三號官舍へ　宇敷かつ子
●近江國大津市關寺町四十九、北川氏方へ　須藤さだ子
●横濱市北仲通六丁目八十二、官舍へ　棟居みち子

●信濃國上伊那郡美篶與村百八十五へ
●帝國大學第一醫院內產婆復習生寄宿舍へ
●下谷區車坂町へ
●麹町區八丁目十二へ
●靜岡縣庵原郡興津町字中宿杉山辰次郎方へ
●芝區芽手町十八へ
●廣島縣佐伯郡己斐村へ

永沼軍治君
高橋泰子
築山かう子
眞崎敏子
加藤由起子
田中てる子
竹中春子

弔詞

本會通常會員（在信州）田原しげ子には去月病死せられたるの報に接し

本會は恭しく哀悼の意を表す

新刊書紹介（寄送の分）

醫學士竹中成憲著
●赤●痢●病●學　正價寄圓郵稅八錢
東京本鄕春木町　半田屋醫書店

本書は赤痢の病理因を明にし治療法に重きを置かんとするの士は座右缺くべからざる良書なることは醫學博士三宅秀氏の書簡によりて明かなり

前略……又手唯今は御毎度尊著御恵贈被成下難有奉謝候早速拜披候處實以て親切周到の御注意感服の至りに存候頃日の書物は一躰に專門に傾き可成高尚の學理或は臆說を冗論するもの多く實地治療家の益を受くる處は僅少なるは小生か平日歎息致し居候處に特に傳染病の如きは原因たる細菌の性狀等を詳說するよりも先本病の治法を說くを緊要なるべしと相考候得共兎角原因と診斷とに重き置き村醫にても喋々と口に筆に其理論を唱へ治療法も至て粗漏にするやに被存候折柄貴下自然に御一讀拜見すれは豫め治療患者の取扱を始め治療上に亘り頗る詳細に記述相成此躰裁のものにして始めて廣く世間を利するものと確信仕候云々

小●說●靑●燈●集　全一冊　定價五十錢　二百余頁
日本橋區大傳馬町　文友館發行

坊間行はるゝ處の小說は兎角卑猥に流れ易く子女の教育上有害なるもの少からされども本書は何れも興味ある短篇高尚の小說のみなれば盡し子女を益することも少からざるべし題目は黑瞳、二人づれ、旅僧、護守の親子、涙痕錄、若葉雨、金時計、野撫子、そのおもかげ、女待人岸の鷺、高等銘酒屋等にして著者は上田、柳浪、鏡花、風葉、秋聲、眉山、楠緒子、春葉。北星。天外の諸氏なり

問答叢書第參篇
地●理●歷●史●問●答　全一冊
日本橋區區傳馬町　文友館發行

本書は官立諸學校入學試驗の問題を集め之に解答を附したるものなれば苟も官立諸學校に入學せんとするものゝ參考として一讀を要すべきものなり

大和田建樹作題
小山作之助作曲
日●本●文●典●唱●歌　全一冊　定價八錢　郵稅二錢
神田區北神保町三番地　啓發社發行

古へより數學の公式などを短歌もて暗記し易き樣敎ゆる便法にならひ興味の内に文法を教えんとは大和田氏豫ての宿志なりしに此度姬百合社出野氏の勸めにより編輯せられたるものにて小山氏の作曲もいと面白く出來たれば文法學ぶ學生の爲めには蓋し其利益少からざるべし

◉寄送交換雜誌（十月分）（順不同）

●日本婦人	第二十四號	東京帝國婦人協會
●日本赤十字	第百三號	東京日本赤十字發行所
●日本橋區衞生協會雜誌	第五十九號	日本橋區衞生會
●日本婦人新聞	第九號	廣島日本婦人新聞社
●日本商業新報	第二卷第四號	日本商業興信所
●防長醫事	第三號	山口防長醫事社
●統計學雜誌	第百八十六號	東京統計學社
●統計集誌	第二百四十七號	東京統計協會
●料理新聞	第十四號	大阪料理新聞社
●をんな	第十號	大日本女學會
●體育	第九十五號	日本體育會
●大日本私立衞生雜誌	第二百二十一號	大日本私立衞生會
●大日本婦人教育雜誌	第百三十八號	大日本婦人教育會
●團々珍聞	第千三百四十二號	東京珍聞館
●獵友	第二卷十號	東京狩獵協會
●通俗衞生	第三七九號	大阪私立衞生會
●上田商事新報	第十六號	信州上田商業新報社
●苦學界	第七號	東京苦學社
●藥石新報	自第四百五號 至第四百七號	大阪藥石新報社
●藥學雜誌	第二百三十六號	東京日本藥學會
●健康乃栞	第六號	廣島健康乃栞社
●婦人新報	第五十四號	東京婦人矯風會
●婦女新聞	自第七十四號 至第七十八號	婦女新聞社
●婦女と子ども	第一卷第十號	フレルベル會
●文典唱歌	一册	東京啓發社
●國家醫學會雜誌	第百七十四號	東京國家醫學會
●工業雜誌	十五卷二百二十號 十五卷二百三十號	東京工業雜誌社
●產科婦人科學雜誌	第三卷十號	東京日本產科婦人學會
●產婆學雜誌	第二十二號	日本產婆學協會
●山陽新報	第六千七百七十九號	山陽新報社
●草樂新聞	第二百廿九號 第二百三十號	大阪草樂新聞社
●教育實驗界	第八卷七號 第八卷八號	東京育成會
●淑女	第三卷第九號	東京紫鷺社
●廣島衞生醫事月報	第三十四號	廣島衞生醫事月報社
●光之庭	第六號	東京以文會
●姬百合	第四卷第三號	東京姬百合社
●越佐教育雜誌	第百六號	越佐教育雜誌社



産婆學雜誌

○毎月一回五日發行
○會員には無代價配布
○會費一ヶ年金一圓

會員募集

何故に本紙を發行したるかと云ふことは、本誌紙上に掲げたる本會設立の趣旨書を讀みて知らるべく、尚同巻末に掲げたる本會々則をも一覽せらるべし。一昨年七月産婆規則の勅令出て、同年九月内務大臣、産婆試驗規則及産婆名簿登錄規則を制定して茲に産婆の地位一入高まり、斯道を研究發達せしむる必要の更に切なるを感じぬ。現に産婆の業に従事して此日進の學問に遲れざらんことを希へる諸姉、將來此學業を修めて世に立たんと志せる諸姉、妊婦、産婦、褥婦の病を介補せらるゝ看護婦諸姉を始めとし、一方に於ては病者の治療に従事せらるゝと同時に一方に於ては産婆及看護婦を學問上及實地上に指導せらるべき醫士諸君は云ふを待たず、苟も一家の主婦となりて其健康を增進し、安らかに分娩を了へ、健かなる世繼をまうけて、家門の繁榮を望まるゝ貴夫人令孃、さては家庭の衛生を重んじらるゝ紳士諸君に至るまで、並ひて此學に興せらるべきことを信じて疑はず、わらず、是等の諸君は此學を耳にせられなば、必ず同志を促して加入せしめたまふなるべし。御住所姓名を明記したまひ事務所に迄申込まれなば雜誌は逐號發送することを怠らざるべし。更に希望すべきは會員諸姉諸君の、分娩時及其前後幷に婦人の衛生、嬰兒の保育等に就て、其見聞せられたるところを報道せられたきことなり。病婦の症狀、及其原因、幷に療法、妊婦の攝生、嬰兒の取扱、乳母の撰擇等に關する質問、提議、經驗談、何れも之を歡迎せん、其報道につきては意味だに明かならば文の巧否、文體の撰擇など諸君が心のまゝなり、唯範圍外に渉れる言論、人の私行を訐ける人身攻擊等を忌むのみ、更に希望するは毎月一回の例會、毎春一回の總會には、缺くることなく出席したまひ、其抱持したまへるところの高說をもらしたまはんことなり。

東京日本橋區浚町三丁目七番地
産科婦人科楠田病院内

日本産婆學協會事務所

（衛生上有益の防寒用具也）

●空氣の乾濕を適度に調整し
●炭酸瓦斯の發生を防止せる

日本室用
木炭焚

暖爐

（烟突不要）



此器の室内全體を平均に快く温暖に成し温度の上昇自在にして他の暖爐に於て免れ難き炭の燃燒より起る炭酸瓦斯の害を除き空氣の乾濕を適度に調整し火氣等にのはせる發無く衛生上有益なる構造にて煙突を要せず安全經濟に持運び自在に形状優美堅固にて頗る裝飾完備す

（有益の證）

‖防寒用具‖

宮城縣病院日本赤十字社東京美術學校東京山病院外數所よりは御試驗の上數個乃至拾數個づつ御用受。足立軍醫監馬島醫學士用代醫學士吉松醫學士井上ドクトル川上ドクトル田中醫學士神吉醫學士以下醫學名の御賞用を受け永樂病院以下各縣立私立病院醫師方より已に一万餘個御用受御試用後更て數個御賞用方多く受好評候

（名譽）

本器は山階宮殿下京都にて御不例の節侍醫方より御勸め申上御用被仰付有益の段御試驗遊ばされ其後東京御本邸へ五個御備近の榮を賞り及本年小松宮殿下より御用被仰付其他文部省外務省農科大學大衛院一條公二條公九條公鷹司公島津公德川公全老公全大山侯蜂須賀侯以下七十餘華族方佐久間中將大追中將寺内中將以下軍人官衛學校其他を合せて已に一万七千餘個御用受好評候

正價五圓五拾錢　荷造費七十五錢

東京市麹町區隼町二十番地

山本賣店

電氣手燭

夜間非常ノ際●旅行ノ際等ニ至便也
價金甲九圓　乙八圓　丙七圓

產科往診

東京市内ニ居住ノ妊婦ニシテ出產時本院ニ來リ診察ヲ受ケ難キ場合ニ於テ往診ヲ請フトキハ產科專門ノ醫員ヲ派シテ診療セシム

但診察料及凡テ其他ノ費用ヲ要セズ

九ヶ月以上ノ妊婦ニシテ入院ヲ請フモノハ診察ノ上官費又ハ私費ヲ以テ入院ヲ許ス

明治三十四年十一月

東京本郷區元富士町

東京帝國大學醫科大學附屬醫院

（電話本局四百四十四番）

私立大日本婦人衛生會茨城支會規則

第一條　開設の趣旨及目的
凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可からず之を望まんとするには必や衛生と相俟ちて而る后ち始めて全き事を得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に陳して更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生上の事項をして益研究し益改善を圖りてその發達を互に努め力めんとするに在る而已。

第二條　名稱
本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を當水戸市に置く。

第三條　會員
本支會々員たることを望む婦人は何人にても入會することを得。

第四條　入會手續
入會の節は氏名族籍住所等を明記し本支會事務所に申込むものとす。
但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと云へども徽章代は豫め前納せらるへし

第五條　會員種類
會員を分ちて特別。通常の終身の三種とす。
（い）終身會員は一時に金拾圓以上
（ろ）特別會員は一ヶ月金二拾錢以上
（は）通常會員は一ヶ月金拾錢を納むること

第六條　男子にして本支會の趣旨を賛成する者は之を賛成員とす其の會費は本支會員に仝じ但し本支會に功勞ある者又は本支會に於て賛成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるへし

第七條　本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得。

第八條　退會せんとする者は其旨本支會事務所に報知すへし。死亡等は親戚知人より通知せらるへし

第九條　本支會に左の役員を置く
（い）支會長　一名、　副支會長　一名
幹事　六名、　評議員　十名、
（ろ）書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す

第十條　役員は任期滿一ヶ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む。

第十一條　本支會長は本會を總理し副支會長は支會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し會計、書記、庶務、各其事に當るへし（但し書記は都合により定員外のものに臨時依托する事あるへし）

第十二條　集會
集は例會、總會、評議員會及臨時會とす。
（い）集會。八月を除く外每月一回第三の日曜日に之を開く。
（ろ）總會。五月適宜の日を以て之を開く。
（は）必要の件あるときは臨時會若しくは評議員會を開きて評議する事あるへし。

第十三條　毎會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講話演說又は之に關したる實驗等をも爲し本支會員に聽講せしむ。
但し會員は知人家族等誘引して參會することを得（此際出席の衣服は總て質素たるへし）

第十四條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず、但し賛成員若しくは會員の縁故ある男子は此限りに非らず
本支會の都合により臨時謝絶することあるへし。

第十五條　毎會開會の實況等を本部へ送致するものとす。

第十六條　會計
本支會の所有金は本支會の名義を以て第百四銀行に預け置くものとす。

第十七條　本支會々費の收入金は之を折半して本部へ便宜之を回送するものとす

第十八條　總會に於て會計の收支決算及成績等を報告するものとす。

第十九條　會員中若し本會の障害となるへき所爲ある者又は會費を滯納するものあるときは本支會長評議會の決議を經て除名す事あるへし

第二十條　玆に記述したる數條の他その必要と認むへき事項あらは成る可く本部の規則を適用するものとす

第二十一條　本支會規則は本支會長の意見又は會員二十名以上の發成により總會の意見を經るに非ざれば漫に之を變換する事を得ず。

明治三十四年十月創立

私立大日本婦人衛生會　茨城支會

事務所、水戸市上市田見小路二十五番地、

私立大日本婦人衛生會 新潟支會規則

第一條 本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり
第二條 當支會の會費は左の六種とす
終身會員 一時限り出金貳拾圓
特別會員 毎月 金參拾錢
通常會員 仝 金貳拾錢
甲毎月 金拾錢
支會員 乙仝 金五錢
第三條 入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし
第四條 會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す
第五條 會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす
第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く
會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す
各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす
第七條 支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし
第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を舉行す
第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし
第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし
會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし
第十一條 一般慈善事業の賛助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす
第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし
第十三條 特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

新潟支會

事務所新潟市旭町一番町十番戶
上河フサ子方

私立大日本婦人衛生會 山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く會長商議員は公撰し幹事は會長之を撰任す 役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰舉庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上着及羽織は綿布を用ゐるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會 宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第壹日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスル時ハ其旨事務所ニ屆出ツベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二ヶ月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會々費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ陪聽セシムベシ●第八條 服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ綿布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條 特ニ支會規則ニ揭ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市馬場町

宇都宮支會

婦人衛生雜誌第百四十四號毎月一回廿日發行
明治卅四年十一月二十日印刷　同年十一月廿日發行

明治二十六年八月二日第三種郵便物認可（明治二十八年十一月二十八日內務省許可）

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表章するため左の徽章を用ゆ

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止乘用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は左の實價を以て會員に頒つ





●通常會員章
第一號　メッキ製拾五錢、送料六錢
第二號　正銀製五拾錢、送料六錢

●修身及特別會員章
第三號　壹圓、送料九錢

御入會注意

御入會の際は三ヶ月以上の**會費前納**にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども御送料とも必らず御前納のこと

東京府下に限り毎月會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候也

追て支會々員は支會へ會費納めらるべきことゝす

一　會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込郵便局）宛振出あるべし又價格表記通運便、何にても差支なし

一　會費受領證を要する節は送料として郵券一錢五厘封入せられたし

一　轉居せられたるときは其旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

一　會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざるものは役員會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

廣告料	
一行	十錢
一頁	參圓
總て前金	

本誌定價一部廿錢　毎月一回發行

發行所　東京市牛込區矢來町三番地中丸、四　私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地　田中徳三郎

印刷者　東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　戸上義章

印刷所　東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場